

■自然保護・生物多様性保全

	事業者コード	環境寄附対象団体名称
1	K043	礼文島自然情報センター
2	K045	アースウォッチ・ジャパン
3	K046	ジャパンワイルドライフセンター
4	K047	生態工房
5	K048	日本ガラパゴスの会
6	K049	日本生態系協会
7	K050	富士山クラブ
8	K051	海をつくる会
9	K052	キープ協会
10	K053	グラウンドワーク三島
11	K054	守山リス研究会
12	K055	大阪自然環境保全協会
13	K056	日本ウミガメ協議会
14	K057	アマモ種子バンク
15	K058	カイツネイチャーネットワーク
16	K059	徳島保全生物学研究会
17	K060	四国自然史科学研究センター
18	K061	阿蘇グリーンストック
19	K062	沖縄県ダイビング安全対策協議会
20	K198	サロベツ・エコ・ネットワーク
21	K199	川島ネイチャークラブ
22	K200	エコロジー夢企画
23	K201	森林塾青水
24	K202	ねっとわーく福島潟
25	K203	信越トレイルクラブ
26	K204	おおいた環境保全フォーラム
27	K205	西表島エコツーリズム協会
28	K230	自然環境復元協会
29	K231	日本鳥類保護連盟

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K043	団体名	特定非営利活動法人礼文島自然情報センター
連絡先 (電話／メール)	0163-85-7830	活動ホームページ (URL)	http://www17.plala.or.jp/rebunsc/index.html
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	礼文島の自然環境の保護		
寄附額合計	¥505,399		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥121,637	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>外来植物除去では桃岩歩道周辺の南北部で作業を実施し、平成23年5月と10月はボランティアの方にも参加頂き7名で約1時間の作業を行い、合計45L袋に1.5袋分除去しました。8月は2名約1時間の作業でレジ袋に2袋分除去しました。また、作業の際に着用するゼッケンを10枚作製しました。除去作業の車両代や作業代などの活動費として34,000円、ゼッケン作製に22,900円を費やしました。久種湖北部ではオオハンゴンソウ除去を2名1日で1,350本を除去しました。車両代と作業代などの活動費で28,000円を費やしました。レプンアツモリソウ調査では結果率調査のサポートをしました。9月に特定の群落3箇所で行い、結果率はそれぞれ80%、15%、0%と各群落で値に大きな差がみられました。車両代や作業代などの活動費で7,000円を費やしました。</p> <p>残りの29,737円は平成23年度の寄附金と合わせて使用します。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥114,910	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>外来植物除去では礼文林道で5月に4名で約2時間作業を実施し、レジ袋に3袋分のセイヨウタンポポを除去しました。外来植物が増え魅力を損なわない様活動を継続していきます。</p> <p>車両代や作業代などの活動費として10,000円を費やしました。久種湖北部ではオオハンゴンソウ除去を3名半日で47本を除去しました。近年中の根絶の可能性が出てきました。車両代と作業代などの活動費で11,500円を費やしました。レプンアツモリソウ調査では結果率調査を実施しました。特定の群落2箇所6月に開花個体の数と位置を記録し、9月には結果の有無を確認しました。結果率は昨年より高く、今後個体数が増やす可能性が考えられました。車両代や作業代などの活動費で28,000円を費やしました。</p> <p>残りの65,410円は前回の繰越金29,737円と合わせて、平成25年度にレプンアツモリソウ調査と外来植物調査及び除去に使用します。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥208,140	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>6月にオニハマダイコン除去を1度3名で実施し約3,400本を除去した。確実に個体数が減少している。除去作業と移動費で15,400円を使用した。また専門家を招き外来植物調査と講習会を実施。講習会には島内外から12名の参加があった。外来植物の確認リストも作成した。講師謝金、調査費と講習会開催で120,400円を使用した。盗掘防止パトロールではポスター制作し関係団体に配布し21,598円を使用した。パトロールは23回実施し23,000円を使用した。今期も盗掘みられなかった。レプンアツモリソウ調査は開花期の6月に9日間実施し、調査と情報処理に83,600円を使用した。調査結果は保護増殖事業に活用されている。</p> <p>平成24年度末までの残金303,287円から今年度の費用を引いた残金39,289円は、平成25年度寄附金と合わせて使用予定とする。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥44,092	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>外来植物オニハマダイコンの除去を6月と8月に1回ずつ実施し、延べ6名で約3,450本を除去した。確実に個体数が減少し、一部ではほとんど見られなくなった。除去作業と移動費で16,000円を使用した。特定外来生物のオオハンゴンソウ除去を1月に1回1名で実施。全体の個体数は21本と少なくなったが、開花個体が昨年よりも多かった。種子が分散する前に除去を完了した。除去作業と移動費で5,000円を使用した。</p> <p>盗掘防止パトロールではポスターを50枚制作し、各関係団体と旅館民宿等に配布しパトロールの協力を求めた。ポスター作成と配布で27,000円を使用した。今期も盗掘はみられなかった。</p> <p>平成25年度末までの残金83,381円から今年度の費用を引いた残金35,381円は、平成26年度寄附金と合わせて使用予定とする。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥16,620	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>礼文島では人の生活圏と寒地(高山性)植物分布地が接近しており、外来植物が寒地植物の中に侵入しやすい状況にあります。</p> <p>このため島の貴重な植物達を守るには、外来植物の除去活動は欠かせない活動です。</p> <p>5月に盗掘防止パトロールのポスターを50枚制作し、各関係団体、旅館民宿等に配布しました。</p> <p>5月には、外来植物のセイヨウタンポポを他団体と協力し、1回7名で小袋14個分を除去しました。</p> <p>7月と8月には、外来植物のオニハマダイコンの除去を1回ずつ延べ4名で実施し約2,840本を除去しました。</p> <p>8月には、外来植物のオオハンゴンソウを1回3名で35本除去しました。</p> <p>今年度の寄附16,620円と、前回の繰越金35,381円は、除去作業の費用と移動費に28,185円、ポスター制作に23,816円を使用し、全額使用しました。</p> <p>詳しくは(http://www17.plala.or.jp/rebunsc/home/2010jutakuplan.html)をご覧ください。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K045	団体名	特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン
連絡先 (電話／メール)	03-6686-0300	活動ホームページ (URL)	http://www.earthwatch.jp/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	生物多様性の保全に関する調査・研究の支援		
寄附額合計	¥232,287		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥45,704	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では一般市民が野外調査に参加して生態調査の現場に立つ機会を提供しています。時間や人手を要する野外研究を支援できるだけでなく、参加者にとって現場体験は日常生活や環境問題について考え直す契機となります。</p> <p>(使途)昨年度、新たにプロジェクト『琵琶湖周辺のカエル』『フィールド体験セミナー「植物園で考えるビジネスと生物多様性」』を立ち上げ、45,704円を使用させていただきました。研究者及び参加者の調査地内移動費用、研究者宿泊費、現地調査費用、研究者謝金に充当しました。これにより参加しやすい研究分担金が設定でき、多人数によるデータ収集を行うことができました。</p> <p>(効果)「琵琶湖のカエル」の調査には合計40名の市民ボランティアが参加し、数百匹もの希少種のカエルの捕獲を通じ、個体数の推移、生息場所の特徴、生息地分断化の影響などを裏付ける科学的データが得られました。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥92,386	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では一般市民が研究者の野外調査に協力することで、時間や人手を要する野外研究を支援し、日常生活や環境問題について考え直すきっかけを作っています。</p> <p>(使途)富士山麓絶滅危惧チョウ類調と固有種のインガメ調査を実施し、研究者と参加者の調査地内移動費用、研究者宿泊費、現地調査費用、研究者謝金に全寄附額の92,386円を使用しました。これにより参加しやすい研究分担金が設定でき、多人数によるデータ収集を行うことができました。</p> <p>(効果)富士山麓絶滅危惧チョウ類調査には、32名が参加し、数種類の絶滅危惧チョウ類だけでなく、絶滅危惧の鳥類や植物も記録されるなど、草原環境評価に向けた大きな成果となりました。固有種のインガメ調査は、参加者11名が約180個体を捕獲し、これにより個体数の推移、河川構造物による生息地分断化の影響、哺乳類による被害の現状などを裏付ける科学的データが得られました。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥55,985	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では一般市民が研究者の野外調査に協力することで、時間や人手を要する野外研究を支援し、日常生活や環境問題について考え直すきっかけを作っています。</p> <p>(使途)千葉県君津市にて固有種のインガメ調査を実施し、研究者と参加者の調査地内移動費用、研究者宿泊費、現地調査費用、研究者謝金に全寄附額の55,985円を使用しました。これにより参加しやすい研究分担金が設定でき、多人数によるデータ収集を行うことができました。</p> <p>(効果)固有種のインガメ調査は、参加者12名が222個体を捕獲し、これにより個体数の推移、河川構造物による生息地分断化の影響、哺乳類による被害の現状などを裏付ける科学的データが得られました。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥20,592	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では一般市民が研究者の野外調査に協力することで、時間や人手を要する野外研究を支援し、日常生活や環境問題について考え直す機会づくりを提供しています。</p> <p>(使途)千葉県君津市にて固有種のインガメ調査を実施し、研究者と参加者の調査地内移動費用、研究者宿泊費、現地調査費用、研究者謝金に全寄附額の20,592円を使用しました。これにより参加しやすい研究分担金が設定でき、多人数によるデータ収集を行うことができました。</p> <p>(効果)固有種のインガメ調査は、参加者8名が165個体を捕獲し、これにより個体数の推移、河川構造物による生息地分断化の影響、哺乳類による被害の現状などを裏付ける科学的データが得られました。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥17,620	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では一般市民が研究者の野外調査に協力することで、時間や人手を要する野外研究を支援し、日常生活や環境問題について考え直すきっかけを作っています。</p> <p>(使途)固有種のニホンインガメ調査を実施し、研究者と参加者の調査地内移動費用、研究者宿泊費、現地調査費用、研究者謝金に全寄附額の17,620円を使用しました。これにより参加しやすい研究分担金が設定でき、多人数によるデータ収集を行うことができました。</p> <p>(効果)固有種のニホンインガメ調査は、参加者10名が156個体を捕獲し、これにより個体数の推移、河川構造物による生息地分断化の影響、哺乳類による被害の現状などを裏付ける科学的データが得られました。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K046	団体名	特定非営利活動法人ジャパンワイルドライフセンター
連絡先 (電話／メール)	042-710-5590	活動ホームページ (URL)	http://www.jwc-web.org/top.html
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	ケニア共和国マサイマラ地域給水プロジェクト		
寄附額合計	¥340,946		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥141,603	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では、2008年よりマサイマラ地域の給水プロジェクトを計画してきました。2010年9月、雨季の雨水を長期利用するため、野生動物保護管理施設の屋根を利用して、雨水利用システムを取り付けました。</p> <p>(使途)設置費として100,785円を使わせていただきました。ご寄附を経費の一部(ガソリン代、通信費、建築資材等)に当て、雨水タンクと雨水を集めるための雨どいを設置することができました。残金40,818円は繰り越します。</p> <p>(効果)雨季は雨水タンクが満タンになり、乾季に入ってもしばらく地域の住民が利用できるようになりました。今までワニや肉食獣がいる川から泥水を汲んできていたので、より安全に清潔な水を手に入れられるようになりました。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥94,760	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では、2008年よりマサイマラ地域の給水プロジェクトを計画し、2010年9月には雨季の雨水を長期利用するため野生動物保護管理施設の屋根を利用して雨水利用システムを取り付け、2012年9月には165mの深さの井戸を掘り、水を汲み上げる電力をまかなう為に太陽光発電システムを設置しました。</p> <p>(使途)井戸掘り費として94,760円と前年度繰越金40,818円、また家電エコポイントにていただいた1,471,667円とを合わせて全額使わせていただきました。ご寄附を経費の一部(掘削作業とケーシング等)に当て、井戸掘りを行うことができました。</p> <p>(効果)水量の多い水脈を掘り当てることができたので、地域住民約4000人や家畜、野生動物たちが半永久的に水を手に入れられるようになり、人と野生動物の摩擦問題の軽減に多いに貢献できたと確信しています。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥74,581	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では、2008年よりマサイマラ地域の給水プロジェクトを計画し、2010年9月には雨季の雨水を長期利用するため野生動物保護管理施設の屋根を利用して雨水利用システムを取り付け、2012年には井戸を掘り、水を汲み上げる電力をまかなう為に太陽光発電システムを設置しました。今回は、より多くの人々に利用してもらえるように井戸水を汲み上げ、一時的に保管するための貯水タンクを設置しました。</p> <p>(使途)貯水タンクの設置費用としていただいたご寄附¥74,581全額を使わせていただきました。ご寄附を経費の一部(貯水タンクを設置する土台の材料費)に当てました。</p> <p>(効果)水量の多い水脈を掘り当て貯水タンクも設置できたので、地域住民約4000人や家畜、野生動物たちが半永久的に水を手に入れられるようになり、人と野生動物の摩擦問題の軽減に多いに貢献できたと確信しています。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥20,882	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では、2008年よりマサイマラ地域の給水プロジェクトを計画し、2010年9月には雨季の雨水を長期利用するため野生動物保護管理施設の屋根を利用して雨水利用システムを取り付け、2012年には井戸を掘り、水を汲み上げる電力をまかなう為に太陽光発電システムを設置し、汲み上げた水を一時的に保管するための貯水タンクを設置(水量センサー付き)しました。今回は、貯水タンクの土台が重みで歪んできたため補強しました。</p> <p>(使途)いただきましたご寄附¥20,882全額と当団体の資金を合わせまして水量センサーの設置に使わせていただきました。</p> <p>(効果)水量の多い水脈を掘り当て貯水タンクも設置できたので、地域住民約4000人や家畜、野生動物たちが半永久的に水を手に入れられるようになり、人と野生動物の摩擦問題の軽減に多いに貢献できたと確信しています。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥9,120	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体では、2008年よりマサイマラ地域の給水プロジェクトを計画し、2010年9月には雨季の雨水を長期利用するため野生動物保護管理施設の屋根を利用して雨水利用システムを取り付け、2012年には井戸を掘り、水を汲み上げる電力をまかなう為に太陽光発電システムを設置し、汲み上げた水を一時的に保管するための貯水タンクを設置(水量センサー付き)しました。今回は、貯水タンクの土台が重みで歪んできたため補強しました。</p> <p>(使途)いただきましたご寄附¥9,120全額と当団体の資金を合わせまして平成27年1月に貯水タンクの土台補強のための鉄パイプなどの資材購入に使わせていただきました。</p> <p>(効果)貯水タンクの土台が補強されたので、地域住民約4000人や家畜、野生動物たちが安全に水を手に入れられるようになり、人と野生動物の摩擦問題の軽減に大いに貢献できたと確信しています。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K047	団体名	特定非営利活動法人生態工房
連絡先 (電話／メール)	0422-27-5634	活動ホームページ (URL)	http://www.eco-works.gr.jp
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	都立公園・緑地の環境再生、カメ等の水生生物の保全および普及・環境教育		
寄附額合計	¥197,259		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥30,276	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)都立光が丘公園バードサンクチュアリや都立石神井公園三宝寺池、都立恩賜井の頭公園等の都市公園にて、カメ等の水生生物の保全を目的とした調査活動と、普及・環境教育活動を平成23年5月から11月の間に84日間実施しました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた30,276円と、当会の資金を合わせまして、平成23年5月に作業で使用するゴム手袋、および胴長靴の修理用品の購入に充てさせて頂きました。</p> <p>(効果)購入した胴長靴と合わせ、市民参加型プログラムの参加者への装備を十分に用意することができました。ご寄附をいただいた皆さま、および、これから当会へのご寄附をお考えの方に是非このプログラムにご参加いただき、在来の水生生物への関心を高めていただけたらと思います。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥92,286	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)都立光が丘公園バードサンクチュアリや都立石神井公園三宝寺池等の都市公園にて、カメ等の水生生物保全を目的とした調査、普及・環境教育活動を行ないました。活動は平成24年5月から12月の間に89日間実施しました。</p> <p>(使途)ご寄附頂いた92,286円と当会の資金を合わせて、作業用ゴム手袋、胴長靴、胴長靴の修理用品の購入に充てさせて頂きました。</p> <p>(効果)購入したゴム手袋・胴長靴で、市民参加型プログラムでの参加者の装備を用意できました。そして、活動を通じて、身近な自然に起きている問題等についての普及・環境教育を行なうことができました。ご寄附いただいた皆さま、これから当会へのご寄附をお考えの方は当会をより知っていただき、プログラムを通じて、在来の水生生物へ関心を寄せていただけたらと思います。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥50,785	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)都立光が丘公園バードサンクチュアリ、都立石神井公園三宝寺池や都立神代水生植物園等の都市公園にて、カメ等の水生生物の保全を目的とした調査活動と普及・環境教育活動を平成25年5月から11月の間に95日間実施しました。</p> <p>(使途)ご寄附頂いた50,785円と当会の資金を合わせ、平成25年度の作業で使用使用するゴム手袋などの消耗品、胴長靴と胴長靴の修理用品の購入に充てさせて頂きました。</p> <p>(効果)消耗品のゴム手袋を購入できました。また、修理用品を購入できたことで、胴長靴の修理ができました。胴長靴を購入できたことで、もう修理ができない欠陥品の胴長靴を処分できました。その結果、市民参加型プログラムの参加者用の装備を万全かつ十分な数を用意することができ、多くの方に利用頂けました。ご寄附をいただいた皆さま、これから当会へのご寄附をお考えの方は、当会を是非知って頂き、このプログラムにもご参加いただければと思います。そして、在来の水生生物への関心を高めていただけたらと思います。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,292	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)都立光が丘公園バードサンクチュアリ、都立石神井公園三宝寺池、都立井の頭恩賜公園等の都市公園にて、カメ等の在来水生生物の保全を目的とした調査活動と市民対象の解説ボランティア養成講座等の外来種問題普及活動を平成25年5月から平成26年4月の間に累計400日間実施しました。</p> <p>(使途)ご寄附頂いた17,292円と当会の資金を合わせ、作業で使用使用するゴム手袋などの消耗品、胴長靴と胴長靴の修理用品を購入しました。</p> <p>(効果)解説ボランティア養成講座における10名の参加者は十分な装備で学んでいただくことができ、その後の当会での活動にボランティア解説員として参加しています。井の頭公園でのかいぼりでは48名のボランティアリーダーを養成し、200名の市民ボランティアと共に活動しました。調査・駆除活動と同時並行で外来種問題普及活動を行うことで、より多くの一般市民の方に外来種問題を普及できました。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥6,620	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>当会では地域の生物多様性を保全するために、都内の水域でブルーギルやウシガエルなどの水生外来生物の防除を行っています。例えば都立光が丘公園バードサンクチュアリ池では東京都公園協会の委託を受けて外来生物防除作業を行っています。平成27年度は約100基のワナを設置し、5月から11月まで毎週2回、計54日間の作業を行いました。</p> <p>今回頂いた6,620円に、当会資金をあわせて平成27年度に外来生物を捕獲するための新たなワナを15基購入することができました。</p> <p>こうしたワナを利用し強い捕獲圧をかけることで、今年度はアメリカザリガニの捕獲数が初めて減少に転じました。今後もワナの数を増やし、捕獲圧を掛け続けることでブルーギルの根絶、ウシガエルやアメリカザリガニの低密度化を図り、その地域本来の環境を取り戻す活動を続けていく予定です。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K048	団体名	特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会
連絡先 (電話／メール)	03-6868-3053	活動ホームページ (URL)	http://www.j-galapagos.org/databox/data.php/act-genchi-100/code
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	プロジェクト・フロレアナ(ガラパゴス諸島)		
寄附額合計	¥226,970		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥31,774	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>フロレアナ島固有の鳥類フロレアナ・マネシツグミは、現在では近くの小島にわずかに生息するのみです。本プロジェクトでは、この鳥のフロレアナ島への復帰が検討されており、今回は、小島での野外調査(生息数や採餌の場所・内容、営巣数や交尾の様子など)を行いました。鳥を捕獲し、タグを付け、体重と体長を測り、鳥痘の有無を調べました。生息数は、全部で278、餌はサボテンの花の蜜やくモ、ムカデなど、2月の繁殖期に低木の樹上などに22の巣を作ったこと、鳥痘はないことなどを確認しました。</p> <p>生息地は無人島で、調査はスタッフとボランティアで4回に渡り行ったため、調査に必要な島間のボートでの移動交通費、島での滞在費、調査に必要な機器・備品費などの一部を、皆様からの寄附で賄いました。また島民に対し、園芸用の外来植物の使用をやめ、在来種を使用して、外来種の移入を防ぐ環境教育活動も行き、配布資料費の一部としても使用しました。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥93,499	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>ガラパゴス諸島で最も入植の歴史の長いフロレアナ島では、入植に伴って侵入した外来種の生態系への影響が深刻です。この島には約150人の島民が住んでおり、人や物資の往来によって侵入する外来種を減らすため、導入が遅れていた検疫システムを構築しました。これには島民の協力が必要で、人材育成や環境教育も平行して行いました。島には1日平均60人の来訪者があり、観光客及び貨物に付着する外来種(主に種子や昆虫、細菌など)の検疫・防除を取り入れました。具体的には靴底の洗浄や殺菌、荷物や貨物の目視検査などです。また外来植物の侵入削減と、島民の子供たちへの啓発のため、小学校に在来種・固有種で構成されたおよそ100aの広さの庭(ネイティブ・ガーデン)を作りました。</p> <p>皆さまから頂いた寄附は、検疫・外来種などの専門家の島間の移動費、そして在来植物の苗約300本の植樹、島内コミュニティの調査費の一部などに使わせて頂きました。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥56,285	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>外来動植物による生態系への影響について調査を行い、その結果に基づき、保全計画が作られました。フロレアナ島ではこれまで、ゾウガメを含む10の固有種が外来種の影響で絶滅したとされ、現在でもその被害は継続しています。調査では、外来植物のブラックベリーが、固有植物の生息域に侵入してニッチを奪っていたり、外来のラットが、ミズナギドリやマネシツグミなど固有鳥類の卵を食べて繁殖を妨げたり、近年広がっている寄生性の外来ハエの幼虫が、フィンチなどのヒナに寄生して体を食べ、寄生された巣の中のヒナが全滅する、などの実態が明らかになりました。</p> <p>皆さまから頂いた寄附は、調査を行った研究者やボランティアの渡航費(島間移動のスピードボート4往復分)や滞在費(島の民宿での宿泊費8日分)に使わせて頂きました。</p> <p>その後、この調査結果を踏まえた外来種の効果的な駆除管理方法が検討・計画(一部は実行)されています。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥20,792	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>フロレアナ島では、絶滅したマネシツグミが島の沖の小島で発見され、保護および再導入に向け、これまで延600時間に及ぶ調査が行われました。研究チームは島の北側の地点を再導入場所として絞り、鳥の卵を食べるラットやネコなど外来種の調査と駆除を開始、再導入に向けた準備を始めました。また、島の子供たちに対して、このプロジェクトやダーウィンが採集したとされるマネシツグミの存在の重要性、その保全がなぜ必要かを講習会で説明し、現地で観察会を行い、子供たちは保全についての理解を深めました。保護区域では生態系再生のための植林(固有種約400苗)を行いました。</p> <p>皆さまからの寄附は全額を、調査費、講習会費、植林用道具や育苗器具の購入などに使わせていただきました。</p> <p>このプロジェクトには島民ボランティアが多く参加しており、頂いた寄附がボランティアの活動経費の一部となったため、プロジェクトを円滑に進めることができました。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥24,620	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)ガラパゴス諸島フロレアナ島全体を保全するこの事業のうち、当会からの支援は主に、外来種の侵入によって破壊された植生の回復を図るプロジェクトに使われました。チームメンバー7名が、のべ12回の渡航をし、フロレアナ島に計68日滞在し、植林をしました。</p> <p>(使途)皆さまからの寄附と当会資金を合わせ、乾燥した場所でも苗を定着させることができる特殊な器具と苗を購入し、固有種・在来種15種402苗を植えました。植えた場所は、ゴミの埋め立て地や共同墓地、元鉱山など、人間の活動によって生態系が破壊・放棄された所も含まれ、外来種の温床となっていました。</p> <p>(効果)特殊な器具(再利用可)の導入により、これまで植えても枯れてしまっていた植物が、生き生きと生長しており、植林を行った場所の生態系の回復に大きく貢献しました。周囲の農家の協力も得て、農業放棄地についても植林を進め、島民の保全意識の向上にも役立ちました。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K049	団体名	財団法人日本生態系協会
連絡先 (電話／メール)	03-5951-0244	活動ホームページ (URL)	http://www.ecosys.or.jp/join/contribution/use.html
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	自然と共存した社会づくりに向けた普及事業		
寄附額合計	¥203,432		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥31,549	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会は、会員向けに2カ月に1度、会報『エコシステム』を発行しています。この会報では、国内外の最新情報を交えた新しい社会のあり方についての提言や、前号発行日以降における協会の具体的活動の報告などを掲載しています。この会報を、社会に影響のある人々に配布するものです。</p> <p>(使途)上記の編集内容から、私たちは社会に影響のある行政職員、国会及び地方議会議員、報道関係者等に会報を無料配布しました。寄附金は、この配布分の印刷代(1冊あたり100円、対象期間中に発行したNO.115～120、6,000冊を増刷)にあてました。</p> <p>(効果)平成22年10月、生物多様性に関する国際会議が名古屋で開催されたこともあり、配布先から多くのお問い合わせをいただき、生物多様性を保全し、自然と共存した美しくにづくり不可欠な考え方を、普及することに役立ったと考えます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥92,086	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会は、会員向けに2カ月に1度、会報『エコシステム』を発行しています。この会報では、国内外の最新情報を交えた新しい社会のあり方についての提言や、前号発行日以降における協会の具体的活動の報告などを掲載しています。この会報を、社会に影響のある人々に配布するものです。</p> <p>(使途)上記の編集内容から、私たちは社会に影響のある行政職員、国会及び地方議会議員、報道関係者等に会報を無料配布しました。寄附金(全額)は配布分の印刷代(1冊あたり100円、発行したNO.121～125、5,000冊を増刷)と送料にあてました。</p> <p>(効果)東日本大震災を契機に持続可能な社会づくりについての議論が多く交わされるような社会情勢もあり、配布先からお問い合わせをいただき、生物多様性を保全し、自然と共存した美しくにづくり不可欠な考え方を、普及することに役立ったと考えます。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥53,885	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会は、会員向けに2カ月に1度、会報『エコシステム』を発行しています。この会報では、国内外の最新情報を交えた新しい社会のあり方についての提言や、前号発行日以降における協会の具体的活動の報告などを掲載しています。この会報を、社会に影響のある人々に配布するものです。</p> <p>(使途)上記の編集内容から、私たちは社会に影響のある行政職員、国会及び地方議会議員、報道関係者等に会報を無料配布しました。寄附金は配布分の印刷代(1冊あたり100円、発行したNO.121～126、5,000冊を増刷)と送料にあてました。</p> <p>(効果)東日本大震災を契機に持続可能な社会づくりについての議論が多く交わされるような社会情勢もあり、配布先からお問い合わせをいただき、生物多様性を保全し、自然と共存した美しくにづくり不可欠な考え方を、普及することに役立ったと考えます。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,292	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会は、会員向けに2カ月に1度、会報『エコシステム』を発行しています。この会報では、国内外の最新情報を交えた新しい社会のあり方についての提言や、前号発行日以降における協会の具体的活動の報告などを掲載しています。この会報を、社会に影響のある人々に配布するものです。</p> <p>(使途)上記の編集内容から、私たちは社会に影響のある行政職員、国会及び地方議会議員、報道関係者等に会報を無料配布しました。寄附金(全額)は配布分の印刷代(1冊あたり100円、発行号NO.127～132分約4,800冊増刷)と送料にあてました。</p> <p>(効果)東日本大震災を契機に持続可能な社会づくりについての議論が多く交わされるような社会情勢もあり、配布先からお問い合わせをいただき、生物多様性を保全し、自然と共存した美しくにづくり不可欠な考え方を、普及することに役立ったと考えます。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥8,620	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会は、会員向けに2カ月に1度、会報『エコシステム』を発行しています。この会報では、国内外の最新情報を交えた新しい社会のあり方についての提言や、前号発行日以降における協会の具体的活動の報告などを掲載しています。この会報を、社会に影響のある人々に配布するものです。</p> <p>(使途)上記の編集内容から、私たちは社会に影響のある行政職員、国会及び地方議会議員、報道関係者等に会報を無料配布しました。寄附金(全額)は配布分の印刷代(1冊あたり100円、発行号NO.133～140分約7,200冊増刷)と送料にあてました。</p> <p>(効果)国による地方創生についての議論が多く交わされるような社会情勢もあり、配布先からお問い合わせをいただき、生物多様性を保全し、自然と共存した美しくにづくり不可欠な考え方を、普及することに役立ったと考えます。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K050	団体名	特定非営利活動法人富士山クラブ
連絡先 (電話／メール)	0555-20-4600	活動ホームページ (URL)	http://www.fujisan.or.jp
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	富士山の自然環境保護・保全・再生活動のうちの「富士山の森林保全・再生」		
寄附額合計	¥675,544		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥135,681	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)富士山クラブでは、台風による風倒被害や、ニホンジカによる食害によって衰退した森を、自然林に復元する為に、森づくり活動を行っています。また、富士山の森林生態系を明らかにする為、巨木を中心にした植生の調査を行っています。</p> <p>(使途)御寄附いただいた135,681円で、森づくり活動の際、現場整備に必要な刈払機や、食害防護ネットの購入させていただきました。お陰様で、地元行政の協力を得ながら、2011年7月2日と11月6日に広葉樹の苗木を600本植栽し、ニホンジカによる食害を防ぐために防護ネットの施工を行いました。</p> <p>(効果)富士山地域では、ニホンジカが急増している為、食害対策を行わない場合、植えた翌日には食害を受けてしまう現状があります。今回、植樹に併せて対策を施工できた為、この問題をクリアすることができました。今後は、苗木の成長を見守りながら、食害対策の有効性を検証していきます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥219,861	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)富士山クラブでは、台風による風倒被害や、ニホンジカによる食害によって衰退した森を、自然林に復元する為に、森づくり活動を行っており、2012年5月12日、地元行政の協力を得て、広葉樹の苗木1,500本を植樹しました。</p> <p>(使途)7月～9月にかけて、植樹した苗木の成長を阻害する雑草の刈り取り作業を実施しました。その際、本作業で必要となる鋸や鎌、刈払機の替刃、燃料などの資機材購入費用として、御寄附いただいた219,861円を使わせていただきました。</p> <p>(効果)雑草は、植樹した苗木と比べると成長速度が速く、梅雨明けごろには、苗木よりも高く成長してしまうため、苗木の成長に欠かせない土中の栄養分と日光が奪われてしまいます。雑草が繁茂する初夏から中秋にかけて下草刈りを行ったことで、苗木の成長を促すことが出来ました。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥116,390	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)富士山の森林生態系を明らかにするために2006年から始まった富士山南面森林調査は、2013年9月に現地調査を終了することができました。今後は調査の精査やデータ化を行い、森林の復元及び保全に役立つ報告資料作りを進めていきます。2013年3月に広葉樹の苗木26本を植えました。また、下草刈り作業を3回実施しました。里山の放置竹林では間伐整備し、夏のキャンプで食器や水筒づくり、冬には門松づくりに生かしました。</p> <p>(使途)御寄附いただいた116,390円は、竹林整備や植樹、下草刈りに必要な鋸や鎌、チェーンソー燃料等の資材購入費用として使わせていただきました。</p> <p>(効果)森林調査7年間の調査距離は約700km、全26種計1663本もの巨木を確認することができました。下草刈りの複数回実施で、苗の生育状況の確認、成長促進させることができました。放置竹林の間伐をとおして、竹の活用方法を考え、実施することができました。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥59,792	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)富士山の森林生態系を明らかにした富士山南面森林調査報告書をまとめました。山麓に植樹した現場では、下草刈り作業、植栽木の成育調査を実施しました。また、放置竹林整備活動では、間伐作業及び間伐竹クラフトプログラムの開発に着手しました。</p> <p>(使途)ご寄附いただいた59,792円は当クラブの資金とあわせ、森林調査ボランティア経費、下草刈りや竹林整備に必要な資機材の購入や竹クラフト開発の材料費として活用しました。</p> <p>(効果)富士山南面森林調査報告書を、監督官庁や、富士山周辺市町村、専門家など、25の機関と個人に提出、助言や指導を受け、森づくり活動を継続しています。放置竹林整備活動では、3種の竹クラフトプログラムを開発し、イベント出展などで実施し、この問題を広く知ってもらおうきっかけになっています。森林復元に取り組む現場の植栽木の成長も順調で、下草刈りの効果が出ています。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥143,820	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)富士山には、風倒被害を受けた自然林や、荒廃した人工林や竹林が点在しています。当団体は、富士山の自然林復元を目的に森林保全活動を実施、ボランティアを募り、人工林の自然林化や放置竹林の適正管理を進めています。</p> <p>(使途)ご寄附頂いた143,820円は当団体の資金と合せ、森林調査データベース構築作業を完了することができました。また、調査、育樹、竹林整備活動用記録用カメラを1台購入しました。</p> <p>(効果)過去8年間に亘り実施した「富士山南面森林調査」では、希少種を含む森林生態に関する情報をデータベース化することができました。2016年度以降、国有林内の当団体協定管理地において、富士山本来の自然林復元に向け、人工林の間伐、広葉樹の再生促進などの取り組みに、本データベースを活用します。山麓部の放置竹林整備や育樹活動において、すでに105人のボランティアが参加、年度末までにさらに3回実施します。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K051	団体名	海をつくる会
連絡先 (電話／メール)	045-313-6160	活動ホームページ (URL)	http://umikai.sakura.ne.jp/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	海底・湖底清掃		
寄附額合計	¥286,921		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥35,178	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>■平成23年5月21日 静岡県焼津港にて海底清掃を14:00～15:30まで1時間半実施。参加者23名、ダイバー12名。結果、海底からのゴミ回収量355.0kgsを回収いたしました。</p> <p>寄附金は、参加ダイバーのエアータンク代として充ていたしました。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥115,782	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>清掃日程・清掃場所・清掃量を記載 平成23年 ★5月30日 西湖・300kgs ★5月30日 河口湖・300kgs ★6月19日 諏訪湖・400kgs ★6月20日 諏訪湖・220kgs ★7月4日 山中湖・300kgs ★8月5日 岩手県釜石佐須漁港・400kgs ★8月28日 山中湖・307kgs ★8月29日 河口湖・250kgs ★9月9日 西湖・130kgs ★9月20日 芦ノ湖・398kgs ★10月2日 猪苗代湖・390kgs ★10月3日 曾原湖・180kgs ★10月14日 西湖・80kgs ★10月17日 山下公園(海底清掃)・150kgs ★11月13日 焼津港・210kgs ★11月14日 清水港・120kgs ★12月11日 熱海・250kgs ★2月12日 神戸垂水港・620kgs 総清掃計6355kgs</p> <p>■寄附金使用用途: 交通費、エアータンク代 寄付金は全額充当、使用済</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥92,383	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>平成24年11月03日(土)河口湖湖底清掃にて ダイバー18名、陸上20名、計38名にて湖底清掃を実施。清掃量 750kgs。 平成25年3月16日(土)宮城県石巻市雄勝漁港にて ダイバー6名、陸上5名、計11名による海底清掃を実施。清掃量 100kgs。</p> <p>寄附金は参加ダイバーのエアータンク代として全額使用。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥34,290	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>平成26年5月10日&11日 群馬県榛名湖にて ダイバー14名、陸上サポーター17名による湖底清掃を実施し、タンク代金14名×2日間×2,700円=75,600円に充当。 不足分は会より支出いたしました。</p> <p>主に回収されたものは ワーム(疑似餌) 757個回収いたしました。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥9,288	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)海をつくる会は 1981年に横浜の観光名所である山下公園前の海底清掃を機会に生まれたボランティア市民団体で、海が好きな人が集まった会です。</p> <p>(使途)今年度の寄附金はH27(2015)年10月18日(日)に第35回 山下公園海底清掃の際に参加ダイバーのためのエアータンク代の一部として充当しました。ダイバー80名@2500円×80本=200,000円</p> <p>(効果)清掃時間は1時間半となり、清掃量は800kgを回収しました。回収物の詳細はホームページにて公開しておりますのでご覧ください。 http://umikai.sakura.ne.jp/katsudou/gomi/2015.10.18yamasita.pdf</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K052	団体名	財団法人キープ協会
連絡先 (電話／メール)	0551-48-3577	活動ホームページ (URL)	http://www.keep.or.jp/place_event/yamane/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	ヤマネの調査研究や保全、環境教育に関する一連の事業		
寄附額合計	¥257,222		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥35,567	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)国指定天然記念物であるニホンヤマネは日本の固有種です。近年、ヤマネは数が少なくなっていると言われていますが、その生態については不明な点が多いため、保護に向けた基礎生態調査が必要とされています。</p> <p>(使途)今回も昨年に引き続き「ヤマネの冬眠場所」や「生息環境(どのくらいの広さの森が必要か)」を明らかにするために発信機を購入し、2011年11月末から現在まで、週1回程度のペースで調査を行っています。今回の調査では、冬眠前のヤマネは樹上や地中を利用するが、冬眠する際には地中を利用することが確認できました。</p> <p>(効果)今後も引き続き調査研究を行い学会等で発表する予定です。将来的には、この調査結果を通じて環境保全と環境教育を推進したいと考えております。 ※発信機調査は、環境省の「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づいた捕獲許可と、文化庁の「文化財保護法」に基づいた現状変更許可を得た上で行ってまいります。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥107,354	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>国指定天然記念物であるニホンヤマネは日本の固有種です。近年、ヤマネは数が少なくなっていると言われていますが、その生態については不明な点が多いため、保護に向けた基礎生態調査が必要とされています。</p> <p>今年度は「ヤマネの休息場所」や「生息環境(どのくらいの広さの森が必要か)」を明らかにするために、頂いた寄附金に当分の資金を加えて発信機を購入し、調査を行っています。今回の調査では、活動期のヤマネは主として樹上部にある朽木や生木の分岐部分などに休んでいることが確認でき、冬期と違い、地上から高い位置にいることが多いとわかりました。</p> <p>今後も引き続き調査研究を行い学会等で発表する予定です。将来的には、この調査結果を通じて環境保全と環境教育を推進したいと考えております。 ※発信機調査は、環境省の「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づいた捕獲許可と、文化庁の「文化財保護法」に基づいた現状変更許可を得た上で行ってまいります。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥79,882	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)国指定の天然記念物であるニホンヤマネは日本の固有種であり、冬場には、半年近く冬眠をする小型の哺乳類です。近年の道路開発などにより、その生息地の減少により生息数の減少が危ぶまれています。しかし、その生態には不明な点が多く、保護をするには継続的な基礎生態調査が必要とされています。</p> <p>(使途)今年度も生息条件解明のための発信機購入費として79,882円を使用させていただきました。これにより、2頭のヤマネを定位することができました。</p> <p>(効果)2頭のヤマネからは、冬期から活動時期に渡って調査を実施しました。季節的な連続データを取ることができたことで、冬眠期から活動期にかけてのヤマネの休息場所の推移を確認することができました。 ※発信機調査は、環境省の「鳥獣の保護及び狩猟の補正化に関する法律」に基づいた捕獲許可と、文化庁の「文化財保護法」に基づいた現状変更許可を得た上で行ってまいります。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥26,165	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)国指定の天然記念物であるニホンヤマネは日本の固有種であり、冬場には、半年近く冬眠をする小型の哺乳類です。近年の道路開発などにより、その生息地の減少により生息数の減少が危ぶまれています。しかし、その生態には不明な点が多く、保護をするには継続的な基礎生態調査が必要とされています。</p> <p>(使途)今年度も生息条件解明のための発信機2台分の購入費の一部として26,165円を使用させていただきました。これにより、1頭のヤマネを定位することができました。</p> <p>(効果)活動期と冬眠期の休息場所のデータを追加で取ることができ、明確となりました。また、追跡個体は11月半ばに冬眠状態に入ったと考えられます。引き続き、データの蓄積を行います。 ※発信機調査は、環境省の「鳥獣の保護及び狩猟の補正化に関する法律」に基づいた捕獲許可と、文化庁の「文化財保護法」に基づいた現状変更許可を得た上で行ってまいります。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥8,254	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)国指定の天然記念物であるニホンヤマネは日本の固有種であり、冬場には、半年近く冬眠をする小型の哺乳類です。近年の道路開発などにより、その生息地の減少により生息数の減少が危ぶまれています。しかし、その生態には不明な点が多く、保護をするには継続的な基礎生態調査が必要とされています。</p> <p>(使途)今年度も生息条件解明のための発信機1台分の購入費の一部として8,254円を使用させていただきました。これにより、ヤマネ1頭分の調査を実施すること可能となりました。</p> <p>(効果)購入した発信機による調査で、秋期の活動期にあるヤマネがヤマブドウなどが結実している採光が多い場所で生活を送っている可能性が示唆されました。今後も、継続して調査をする予定です。 ※発信機調査は、環境省の「鳥獣の保護及び狩猟の補正化に関する法律」に基づいた捕獲許可と、文化庁の「文化財保護法」に基づいた現状変更許可を得た上で行ってまいります。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K053	団体名	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
連絡先 (電話／メール)	055-983-0136	活動ホームページ (URL)	http://www.gwmishima.jp/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	ふるさとの森を守れ・松毛川河畔林環境再生活動		
寄附額合計	¥246,592		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥32,318	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)本法人では、静岡県三島市と沼津市の境界に位置する松毛川(まつげがわ)において、100種類もの野鳥や絶滅危惧種のメダカなどの生き物の観察会や環境調査、河畔林の保全再生活動を行っています。100年前の狩野川の原風景が残る、この河川敷では、巨木の群落からなる貴重な河畔林が残っていますが、ヘドロの堆積や水質悪化、河畔林の倒木や枯死により、環境悪化が進んでいます。</p> <p>(使途)25の個人・団体の皆さま等からの寄附金32,318円で、草刈り機や鋸の替刃、軍手、ゴミ袋を購入し、平成23年7月16日、地元住民や子どもたちと共に実施した、植林地の下草刈りや竹の伐採、清掃活動で使用しました。</p> <p>(効果)松毛川河畔の植林地約1,000㎡の下草や繁茂した竹、投棄ゴミなど、2トントラック1台分を回収することができ、環境改善が進みました。今後も継続的な河畔林の保全再生活動に取り組んでいきます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥126,184	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)本法人では、静岡県三島市と沼津市の境界に位置する松毛川(まつげがわ)において、100種類もの野鳥や絶滅危惧種のメダカなどの生き物の観察会や環境調査、河畔林の保全再生活動を行っています。100年前の狩野川の原風景が残る、この河川敷では、巨木の群落からなる貴重な河畔林が残っていますが、ヘドロの堆積や水質悪化、河畔林の倒木や枯死により、環境悪化が進んでいます。</p> <p>(使途)28の個人・団体の皆様からご寄附いただいた126,184円は、平成24年6月17日の植生植物観察会、11月21日のポートからの河畔林観察会、平成25年2月11日の水質調査・野鳥観察会の開催経費の一部(資料印刷代、ポート資機材、バックテスト等)として活用させていただきました。</p> <p>(効果)地域住民、子ども、市民など参加者62人に、松毛川の自然環境の貴重性や重要性を深く学んでもらうことができました。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥56,182	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)本法人では、静岡県三島市と沼津市の境界に位置する松毛川(まつげがわ)において、100種類もの野鳥や絶滅危惧種のメダカなどの生き物の観察会や環境調査、河畔林の保全再生活動を行っています。100年前の狩野川の原風景が残る、この河川敷では、巨木の群落からなる貴重な河畔林が残っていますが、ヘドロの堆積や水質悪化、河畔林の倒木や枯死により、環境悪化が進んでいます。</p> <p>(使途)28の個人・団体の皆様からご寄附いただいた56,182円は、平成25年12月14日、15日の松毛川「千年の森」づくり植樹、平成26年1月11日、12日の松毛川竹林伐採、竹しがらづくり、植樹、3月9日の松毛川自然堤防づくりの開催経費の一部(苗木代、ロープ代、重機・燃料代等)として活用させていただきました。</p> <p>(効果)地域住民、子ども、大学生など延べ69人の参加をいただきながら、潜在自然植生の苗木300本の植樹や竹林伐採、竹しがらを用いた自然堤防づくりを行うことができました。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥18,290	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)松毛川は、三島市と沼津市の境界に位置する狩野川の旧河川敷で、約6haの三日月形の止水域です。両岸には、樹齢100年以上の多数の巨木からなる河畔林が、狩野川の原風景である「森の自然堤防」を形成しており、防災・治水・自然環境・歴史的にも重要な場所です。しかし近年、土砂の堆積によって治水機能が低下し、自然堤防の浸食・崩壊等による河畔林の倒木が進み、「ふるさとの川と森」が消滅の危機にさらされています。</p> <p>(使途)竹林伐採を計9回実施(延べ180名参加)、植樹を計4回実施(延べ98名参加)しました。いただいた寄附金18,290円全額を活用し、ゴミ袋や軍手等の消耗品を購入しました。</p> <p>(効果)荒廃した右岸の河畔約400㎡の竹林伐採と、潜在自然植生の苗木300本の植樹を進めることができました。今後も、地域の皆様と共に、竹林伐採・植樹等の「千年の森」づくりを継続して取り組んでいきます。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥13,618	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)松毛川は、三島市と沼津市の境界に位置する狩野川の旧河川敷で、約6haの三日月形の止水域です。両岸には、樹齢100年以上の多数の巨木からなる河畔林が「森の自然堤防」を形成しており、防災・治水・自然環境・歴史的にも重要な場所です。しかし近年、土砂の堆積によって治水機能が低下し、自然堤防の浸食・崩壊等による河畔林の倒木が進み、「ふるさとの川と森」が消滅の危機にさらされています。</p> <p>(使途)ご寄附いただいた13,618円でゴミ袋、軍手、草刈鎌を購入し、竹林伐採・環境整備活動(計16回、延べ284名参加)や植樹活動(計2回、延べ48名参加)で活用させていただきました。</p> <p>(効果)荒廃した右岸の河畔約615㎡の竹林伐採と、潜在自然植生の苗木200本の植樹を行い、自然護岸の造成を進めることができました。今後も地域の皆様と共に竹林伐採・植樹等を行い、「千年の森」づくりを継続して取り組んでいきます。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K054	団体名	守山リス研究会
連絡先 (電話／メール)	052-795-2616	活動ホームページ (URL)	http://www.asahi-net.or.jp/~fb4m-iszk/risuken
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	野生のニホンリス保全活動をする中で環境教育を実践する		
寄附額合計	¥244,032		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥31,473	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>2007年から名古屋大学・ゴルフ場・リス研の3者で、東谷山・ゴルフ場・森林公園の3箇所を繋げる幅2km長さ5kmの緑の回廊の形成を実施しており、回廊内へのアカマツ・オニグルミの毎年2回の植樹活動とリスの行動・生息地を毎週調査してきました。</p> <p>この度ご寄附頂いた ¥31473円はリスの行動調査のために米国製発信機と定点観測用の自動撮影装置の追加購入に当てられました。しかし発信機装着したリスの移動先での撮影がまだされないため再捕獲できず、DNA鑑定まで至っていません。しかし森林公園での頭数増加が確認され、三箇所での繁殖が継続していることが確認される一方で、今まで不明であったリスの天敵であるフクロウ、ヘビの増加も撮影確認されて自然のバランスがとられ始めていることも判明しました。これらの活動記録は会報「リス研通信」(毎月20ページ)で関係者に報告されておりますのでご希望の方はメールでご連絡ください。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥110,571	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>名古屋大学・ゴルフ場・リス研の3者で、東谷山・ゴルフ場・森林公園を繋げる幅2km長さ5kmの緑の回廊の形成を実施しており、3地域へのアカマツ・オニグルミの毎年2回の植樹活動とリスの行動・生息地を毎週調査してきました。</p> <p>この度ご寄附頂いた¥110,571円はリスムササビ調査のため米国製自動撮影装置・発信機の輸入とそれらの電池代及び会報発行費用(コピー・郵送料の一部)に充てられました。</p> <p>2009-10年リス増加が見られましたが、2011-2012年東谷山のリスの頭数減少が見られ、自動撮影装置で初めて頻りに撮影された天敵であるヘビ・フクロウの増加によると推定され、そのため森林公園での発信機付リスの再捕獲ができず、DNA鑑定まで至っていません。これらの活動記録は会報「リス研通信」(毎月20ページ)で140個人や団体に送付されています。希望者には有料送付申し上げますのでメールでご連絡ください。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥57,782	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>森林公園ゴルフ場との5年間に渡るアカマツ1000本オニグルミ400本の植樹が終了し、森林公園と東谷山を繋げる2km×5kmの緑の回廊の形成活動が一段落しました。</p> <p>この度ご寄附頂いた57782円は、自己資金と共に、米国製自動撮影装置(2台)・発信機(5台)の輸入に当てられました。</p> <p>動物界での情報交換が密なのか、2011-2012年東谷山のフクロウ、ヘビなどの天敵増加傾向によりリス頭数の減少が見られましたが、2012-2013年リスが天敵対応を学習したのか、クミ消費量も増え、全体として年20数頭の安定した繁殖に戻ったと喜んでいます。森林公園での発信機付リスの撮影確認が2012年されましたが、再捕獲ができずDNA鑑定まで至っていません。これらの活動記録は会報「リス研通信」(毎月20ページ)で140個人や団体に送付されています。希望者には有料送付申し上げますのでメールでご連絡ください。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥33,588	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>この度ご寄附頂いた33588円は、自己資金と共に、給餌用オニグルミの購入、5年間使用した米国製自動撮影装置故障の代替器(2台x2万円)・発信機(5台x2万円)の直接輸入購入に当てられました。</p> <p>2013-2014年東谷山のデータからクミ消費量も増え、捕獲個体数の増加傾向が推定され、春の繁殖だけでなく秋の繁殖も推定され、全体として年20数頭の安定した繁殖に戻ったと喜んでいます。環境教育の一環として発信機装着したリスからの発信音もきちんと小学2年生から6年の子どもたちによって追跡されてその行動や巣の位置が調査されています。森林公園での発信機付リスの撮影確認が2012年されましたが、再捕獲がかなり困難でDNA鑑定まで至っていません。これらの活動記録は会報「リス研通信」(毎月20ページ)で140個人や団体に送付されています。希望者には有料送付申し上げますのでメールでご連絡ください。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥10,618	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>この度ご寄附頂いた10618円は、自己資金と共に、5年間使用した米国製自動撮影装置故障の代替器(3台x2万円)・発信機(電池寿命400日のもの5台x2万円)の直接輸入購入に当てられました。</p> <p>2013-2014年東谷山のデータからクミ消費量も安定し、捕獲個体数増加から増加傾向が推定され、全体として年20数頭の安定した繁殖に戻ったと喜んでいます。発信機装着したリスからの発信音もきちんと小学2年生から6年生の子どもたちによって追跡されてその行動や新しい巣の位置が発見されて、増加の裏付けとなっています。森林公園での発信機付リスの撮影確認が2012年されましたが、再捕獲ができずDNA鑑定まで至っていません。これらの活動記録は会報「リス研通信」(毎月20ページ)で150個人や団体に送付されていますが、希望者には有料送付申し上げますので当会HP(http://www.asahi-net.or.jp/~fb4m-iszk/risuken)よりメールでご連絡ください。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K055	団体名	社団法人大阪自然環境保全協会
連絡先 (電話／メール)	06-6242-8720	活動ホームページ (URL)	http://www.nature.or.jp/conservation/hirakata_tayousei.html
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	生物多様性の保護・保全の推進		
寄附額合計	¥234,137		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥31,271	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会では2010年度より、大阪府高槻市の本山寺等周辺に広がる大阪府自然環境保全地域の自然林の保全活動を行っています。本山寺等のモミ・ツガ・アカガシ林は、環境省による自然環境基礎調査でも特定植物群落とされている貴重な自然林。しかし、近年はシカの採食により森林の更新が危惧され、シカの現況や、植生への影響調査、植生保護柵設置による植生回復モニタリング、また啓発、広報のため学習会開催などを実施しています。</p> <p>(使途)この度ご寄附いただきました御浄財は、植生保護のための防護柵の購入、設置費用の一部として使わせていただきました。防護柵の設置は確実に植生を守る事ができる直接的な手法です。</p> <p>(効果)防護柵の設置により樹木の実生を鹿の食害から守ることができるため、今後、植生回復モニタリング調査などにより貴重な天然林の保全を進めていきます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥96,784	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>生物多様性の危機が深まっているなか、自然や生物その環境に関する倫理(観)についての研究・議論も重要になっています。当協会では、学生や若い研究者を中心に「環境倫理談話会」を開いており、そこで得られた知見に基づき、環境倫理シンポジウムを開催することになり、2011年9月、この分野の専門研究者もいる大阪府立大学において約100人規模でこれを実施しました。</p> <p>(使途)ご寄附は、広報チラシ作成、配布物通信費、環境倫理資料集「対話による環境倫理の構築」の作成、会場費、スタッフ交通費に使わせていただきました。</p> <p>(効果)こうした分野のシンポジウムは極めて希な機会であり、今後の生物多様性・自然環境保全に関する基本的な哲学、思考、概念などを抽出し、それらをまとめることができ、非常に有意義な機会をつくることができたとと言えます。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥74,281	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会では「生物多様性保全の取り組み」を推進しており、大阪府枚方市尊延寺「縄文谷」の里地・農地を放棄から保護保全するため、平成25年7月より「里山生物多様性保全と資源活用・農と地域支援・自然環境学習」をテーマにプログラムづくりを行っています。機械を使わない手刈りによる稲刈りや稲穂の天日干し、落ち葉を集めての堆肥づくりや「しいたけのホダ木作り・焼き芋体験」イベントを開催し、里山整備を体験するとともに自然環境学習活動をおこないました。また、近ごろ里山ではナラの大木などのナラ枯れという被害現象が広がり、また、外来種の樹木が顕著に繁茂してきており、これらの樹木の位置情報を正確に調査するため、GPS計測器を購入させていただきました。</p> <p>(使途)ご寄附いただきました74,281円は、GPS計測器の購入(25,465円)、および里地・農地の維持・イベントなどと外来種調査活動の運営費(残額)に充当させていただきました。ありがとうございました。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥22,683	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会では「生物多様性保全の取り組み」を推進しており、「里山の生物多様性保全と資源活用・農と地域支援・自然環境学習」活動を平成25年7月から行っています。場所は枚方市尊延寺・縄文谷などの里山約1.5haで、住宅地にも接する場所です。こうした多くの里山は有効に活用されないため開発が続いています。そこで、手刈りの稲刈りや稲穂の天日干し、無農薬栽培、落葉の堆肥づくりなど自然環境を活かした農事の支援とともに里山の保全維持を体験しながらの自然環境学習活動を行いました。</p> <p>(使途)ご寄附の22,683円は自己資金を合わせまして、活動の指導者や運営スタッフの交通費とさせていただきます。また活動を基に冊子「里山保全・農ごよみ」の作成も進めており、その取材のための交通費にも充てさせていただきます。里山の放棄を回避する保全活動・農事支援・環境学習・・・という3つの狙いの活動を進めることができました。</p>	
平成27年度			
寄附額	¥9,118		
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会では平成25年7月から引き続き、「生物多様性保全の取り組み」を推進しており、「里山の生物多様性保全と資源活用・農と地域支援・自然環境学習」の活動を行っています。場所はこれまで同様、枚方市尊延寺・縄文谷などの里山約1.5haです。多くの里山は有効に活用されず開発が続いており、水田の草取りや稲穂の天日干し、無農薬栽培など自然環境を活かした農事の支援とともに里山保全を体験しながらの自然環境学習を行いました。</p> <p>(使途)ご寄附9,118円は、引き続き、当該自己資金と合わせ、活動指導者やスタッフの交通費とさせていただきます。また活動を基にした冊子「里山保全・農ごよみ」づくりも進めており、その取材交通費にも充てさせていただきます。</p> <p>(効果)ご寄附により、里山の放棄を回避する保全活動・農事支援・環境学習という3つの狙いの活動を今年も進めることができました。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K056	団体名	特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会
連絡先 (電話／メール)	072-864-0335	活動ホームページ (URL)	http://www.umigame.org/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	ウミガメの保全のための基礎調査レポート		
寄附額合計	¥894,216		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥55,498	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 当会では、野間池や室戸岬の定置網にて混獲されるウミガメの調査・研究及び保全活動を実施しております。さらに、日本各地の砂浜で調査や保全活動を行うメンバーへのサポートとして、ウミガメの標識配布及び調査補助を行うこと、さらに学生への支援として車の貸出や会議参加費の補助などを行っております。</p> <p>(使途) 今回ご寄附いただいた55,498円と当会の資金を用いまして、琉球大学・鹿児島大学・三重大学に各車1台の補助、交通費補助として、学生に対する支援を行いました。</p> <p>(効果) 経済的な面で調査に支障をきたすことなく、自身らで調査・研究を行ったことを学会で発表する機会を支援することで、多くの学生が意見を述べる機会を持つことができいております。皆様からのご寄附を今後も学生への支援にあてがうことで、日本の次世代を担う若者を育成することにつながっております。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥109,336	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 当会では、野間池や室戸岬の定置網にて混獲されるウミガメの調査・研究及び保全活動を実施しております。さらに、日本各地の砂浜で調査や保全活動を行うメンバーへのサポートとして、ウミガメの標識配布及び調査補助を行うこと、さらに学生への支援として車の貸出や会議参加費の補助などを行っております。</p> <p>(使途) 今回ご寄附いただいた109,336円と当会の資金を用いまして、琉球大学・鹿児島大学・三重大学に各車1台の補助、交通費補助として、学生に対する支援を行いました。</p> <p>(効果) 経済的な面で調査に支障をきたすことなく、自身らで調査・研究を行ったことを学会で発表する機会を支援することで、多くの学生が意見を述べる機会を持つことができいております。皆様からのご寄附を今後も学生への支援にあてがうことで、日本の次世代を担う若者を育成することにつながっております。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥435,870	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 野間池や室戸岬の定置網にて混獲されるウミガメの調査・研究及び保全活動を実施しました。さらに、日本各地の砂浜で調査や保全活動を行うメンバーへのサポートとして、ウミガメの標識配布及び調査補助を行うことができました。また学生への支援として車の貸出や会議参加費の補助などを行いました。</p> <p>(使途) 今回ご寄附いただいたうち、全国の調査サポートとして標識、ノギス、温度ロガーの購入に332,249円を用いました。学生に対する支援では、103,621円と当会の資金を用い、琉球大学・鹿児島大学・三重大学に各車1台の補助、交通費の補助を行いました。</p> <p>(効果) 漁網からウミガメを救い、漁業者との連携を深め、各地にも標識を配布し、新たなネットワークの構築にも役立っております。また、学生を支援することで日本の次世代を担う若者を育成することにつながっております。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥206,787	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 当会では、野間池や室戸岬の定置網にて混獲されるウミガメの調査・研究及び保全活動を実施しております。さらに、日本各地の砂浜で調査や保全活動を行うメンバーへのサポートとして、ウミガメの標識配布及び調査補助を行うこと、さらに学生への支援として車の貸出や会議参加費の補助などを行っております。</p> <p>(使途) 今回ご寄附いただいた206,787円と当会の資金を用いまして、琉球大学・鹿児島大学・三重大学に各車1台の補助、交通費補助として、学生に対する支援を行いました。</p> <p>(効果) 経済的な面で調査に支障をきたすことなく、自身らで調査・研究を行ったことを学会で発表する機会を支援することで、多くの学生が意見を述べる機会を持つことができっております。皆様からのご寄附を今後も学生への支援にあてがうことで、日本の次世代を担う若者を育成することにつながっております。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥86,725	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 当会では、野間池や室戸岬の定置網にて混獲されるウミガメの調査・研究及び保全活動を実施しております。さらに、日本各地の砂浜で調査や保全活動を行うメンバーへのサポートとして、ウミガメの標識配布及び調査補助を行うこと、さらに学生への支援として車の貸出や会議参加費の補助などを行っております。</p> <p>(使途) 今回ご寄附いただいた86,725円と当会の資金を用いまして、琉球大学に車1台の補助、交通費補助として、学生に対する支援を行いました。</p> <p>(効果) 経済的な面で調査に支障をきたすことなく、自身らで調査・研究を行ったことを学会で発表する機会を支援することで、多くの学生が意見を述べる機会を持つことができっております。皆様からのご寄附を今後も学生への支援にあてがうことで、日本の次世代を担う若者を育成することにつながっております。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K057	団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク
連絡先 (電話／メール)	0798-42-3884	活動ホームページ (URL)	http://www.amamobank.sakura.ne.jp/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・プロジェクト名	「なぎさ海道」アマモ場再生プロジェクト		
寄附額合計	¥510,809		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥29,671	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当NPOは播磨灘～大阪湾～紀州灘を結ぶ「なぎさ海道」でアマモ場再生活動をしています。このため、「なぎさ海道」沿岸部の自生アマモ場で5～6月にアマモ種子を採取し、再生活動に種子を使用する10～11月まで保存しました。そして、各地域の小学校、市民活動団体と協働して、10～3月にかけてアマモ苗を育て移植、10～11月にアマモ播種シートを作成し海底に設置しました。このアマモ苗移植、播種シート設置作業はボランティア・ダイバーにお願いしました。また、アマモ場造成の普及・啓蒙のため5月に大阪市で「第7回アマモ勉強会」を開催しました。</p> <p>(使途)寄附金29,671円はアマモ場再生活動でのスタッフの旅費交通費に充当させて頂きました。</p> <p>(効果)アマモ場再生事業には小学校児童400名を含む延べ900名、また「アマモ勉強会」には40名の参加を得ました。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥404,951	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当NPOは播磨灘～大阪湾～紀州灘を結ぶ「なぎさ海道」でアマモ場再生活動をしています。このため、「なぎさ海道」沿岸部の自生アマモ場で5～6月にアマモ種子を採取し、再生活動に種子を使用する10～11月まで保存しました。そして、各地域の小学校、市民活動団体と協働して、10～3月にかけてアマモ苗を育て移植、10～11月にアマモ播種シートを作成し海底に設置しました。また、アマモ場造成の普及・啓蒙のため11月に大阪市・海遊館で開催された「第4回全国アマモサミット2011」では事務局を担当した。</p> <p>(使途)寄附金404,951円はアマモ場再生活動でのスタッフ交通費、水槽使用料、ボランティア・ダイバーへの費用弁済、全国アマモサミットでの運営費に充当した。</p> <p>(効果)アマモ場再生事業には小学校児童400名を含む延べ1,000名、また「全国アマモサミット2011」には200名の参加を得ました。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥52,281	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当NPOは播磨灘～大阪湾～紀州灘を結ぶ「なぎさ海道」でアマモ場再生活動をしています。このため、「なぎさ海道」沿岸部の自生アマモ場(赤穂市・唐船海岸、姫路市・白浜海岸、明石市・江井ヶ島海岸、田辺市・内之浦湾)で5～6月にアマモ種子を採取し、再生活動に種子を使用する10～11月まで保存しました。そして、各地域の小学校、市民活動団体と協働して、10～3月にかけてアマモ苗を育て移植(赤穂市・大塚海岸、相生市・那波港、姫路市・白浜海岸)、10～11月にアマモ播種シートを作成し海底に設置(大阪府・泉南海岸)しました。</p> <p>(使途)寄附金52,281円はアマモ場再生活動でのスタッフ交通費に充当した。</p> <p>(効果)アマモ場再生事業には小学校児童300名を含む延べ650名の参加を得ました。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,288	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当NPOは播磨灘～大阪湾～紀州灘を結ぶ「なぎさ海道」でアマモ場再生活動をしています。このため、「なぎさ海道」沿岸部の赤穂市唐船海岸、姫路市白浜海岸、明石市江井ヶ島海岸の自生アマモ場で6月にアマモ種子を採取し、再生活動に種子を使用する10～11月まで保存しました。そして、各地域の小学校、市民活動団体と協働して、10～3月にかけてアマモ苗を育て移植、10～11月にアマモ播種シートを作成し海底に設置しました。このアマモ苗移植、播種シート設置作業はボランティア・ダイバーにお願いしました。</p> <p>(使途)寄附金17,288円はアマモ場再生活動でのスタッフの旅費交通費に充当させて頂きました。</p> <p>(効果)アマモ場再生事業には小学校児童200名を含む延べ250名の参加を得ました。</p>	
平成27年度			
寄附額	¥6,618		
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当NPOは播磨灘～大阪湾～紀州灘を結ぶ「なぎさ海道」でアマモ場再生活動をしています。このため、「なぎさ海道」沿岸部の赤穂市唐船海岸、姫路市白浜海岸、明石市江井ヶ島海岸の自生アマモ場で6月にアマモ種子を採取し、再生活動に種子を使用する10～11月まで保存しました。そして、各地域の小学校、市民活動団体と協働して、10～3月にかけてアマモ苗を育て移植、また、10～11月にアマモ播種シートを作成し海底に設置しました。このアマモ苗移植、播種シート設置作業はボランティア・ダイバーにお願いしました。</p> <p>(使途)寄附金6,618円はアマモ場再生活動でのスタッフの旅費交通費に充当させて頂きました。</p> <p>(効果)アマモ場再生事業には小学校児童230名を含む延べ280名の参加を得ました。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K058	団体名	特定非営利活動法人カイフネイチャーネットワーク
連絡先 (電話／メール)	090-7783-8814	活動ホームページ (URL)	http://wwwc.pikara.ne.jp/kaifu-n-net/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	牟岐大島・周辺海域の自然保護(フウランとサンゴ保護をメインとした活動)		
寄附額合計	¥214,523		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥32,810	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、徳島県海部郡内の自然保護活動と自然と共生するまちづくり活動を行っています。特に、牟岐大島と周辺海域の生物多様性保護に力を入れています。しかし、近年の温暖化によりオニヒトデやレイシガイダマンなどのサンゴ食害生物が爆発的に増加し、死滅するサンゴが増えていきます。また、大島に生育するフウランをはじめとする稀少植物は盗掘や環境変化により個体数が激減しています。</p> <p>(使途)ご寄附いただいた32,810円と当法人資金等により、作業船を借り上げて平成22年5月11日平成23年3月地域住民・ダイバーと共同でサンゴ保全を行いました。また、フウラン苗移植と植物調査を実施しました</p> <p>(効果)合計628匹のオニヒトデと3,500個以上のサンゴ食巻貝を駆除しました。フウラン100株の移植と移植株の生存率・生育適正条件が把握できました。今後も、陸・海の生物多様性保全に地域と共に取り組んでいきます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥104,530	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、徳島県海部郡内の自然保護活動と自然と共生するまちづくり活動を行っています。特に、牟岐大島と周辺海域の生物多様性保護に力を入れています。温暖化でオニヒトデやレイシガイダマンなどのサンゴ食害生物が増加し、死滅するサンゴが増えていきます。また、大島に生育する稀少植物は環境変化により個体数が激減し、海岸の植物や産卵に来るウミガメには、漂着ゴミの悪影響がでています。</p> <p>(使途)この度ご寄附いただいた104,530円と当法人資金をあわせて、平成22年5月から地域住民とダイバー共同でサンゴ保全を行いました。また、5カ所の海岸でアカウミガメの調査と漂着ゴミを撤去しました。</p> <p>(効果)合計291匹のオニヒトデと3500個以上のサンゴ食巻貝を駆除しました。海岸清掃により1.2トン以上のゴミを撤去しました。今後も、生物多様性保全に地域と共に取り組んでいきます。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥53,780	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、徳島県海部郡内の自然保護活動と自然と共生するまちづくり活動を行っています。特に、牟岐大島と周辺海域の生物多様性保護に力を入れています。温暖化でオニヒトデやレイシガイダマンなどのサンゴ食害生物が増加し、死滅するサンゴが増えていきます。また、環境の悪化により産卵に来るウミガメが激減しています。</p> <p>(使途)この度ご寄附いただいた53,780円と当法人資金をあわせて、平成25年7月に地域住民とダイバー共同でサンゴ保全を行いました。</p> <p>(効果)合計15匹のオニヒトデと400個以上のサンゴ食巻貝を駆除しました。今後も、生物多様性保全に地域と共に取り組んでいきます。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,286	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>・当法人では、牟岐大島内湾の千年サンゴの保全活動を平成20年から継続して行っています。毎年地元ボランティアダイバーと共に年6～10回のサンゴ食害生物(オニヒトデや食巻貝)駆除を行っています。今後とも、サンゴダメージを定期的に把握し、迅速に正しい保護を行う必要があります。</p> <p>・このたびご寄附いただいた17,286円と当法人の資金を合わせ、年6回の有害生物駆除を行うとともに、初めて、千年サンゴ周辺の海底調査を行うことができました。駆除活動には延べ107名のボランティアが参加、また、調査はサンゴスポットチェックと100mロープを千年サンゴ直下の海底に張り、地域のダイバー等14名による海底データの採取を行いました。</p> <p>・千年サンゴの保護を行うとともに周辺環境の基礎調査を開始できたことで、サンゴを含めた海域生物の保全をどう進めていくかをダイバーだけでなく地域住民や学識者と検討することができます。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥6,117	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>・この度、千年サンゴの希少性とその保全活動が認められ日本ユネスコ協会から未来遺産の認定を受けることができました。(http://www.sennensango.com/docs/2016032500010/)</p> <p>・当法人では、牟岐大島内湾の千年サンゴの保全活動を平成20年から継続しています。地元ボランティアダイバー等と共にサンゴ保全を定期的に行った結果、サンゴ食害生物の数が減り、被害の拡大が収まりつつあります。</p> <p>・ご寄附頂いた6,117円と当法人の資金を合わせ、2回の保全活動と4回の千年サンゴ周辺の環境調査を行うことができました。駆除活動には延べ30名のボランティアが参加。調査はサンゴスポットチェックと100mロープを千年サンゴ直下の海底に張り、地域ダイバー等が海藻生育状況や底質の調査を行いました。</p> <p>・千年サンゴの保護を行うと共に周辺環境の調査を進め、その結果を情報共有することで、サンゴを含めた海域生物の保全について、ダイバーだけでなく地域住民や行政と一緒に取り組むことができました。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K059	団体名	特定非営利活動法人徳島保全生物学研究会
連絡先 (電話／メール)	090-8717-1193	活動ホームページ (URL)	http://www.hozen-tokushima.org/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・プロジェクト名	自然環境情報ネットワーク事業・自然環境啓発事業		
寄附額合計	¥208,732		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥30,170	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人は、徳島県の生物多様性地域戦略づくりに向けて、徳島県内の市民団体のネットワーク形成及び自然環境に関わる情報の集積に取り組んでいます。従来から行ってきた一般住民向けの広報活動に加えて、企業向けの広報活動が不十分である点が課題でした。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた30,170円と、当会の資金を合わせまして、企業に対して野生生物・生態系の情報や自然環境保全をPRするパンフレットの情報収集・加工作業を実施しました。引き続き、効果的な広報パンフレットを作成に取り組んでいきます。</p> <p>(効果)来年度は作成したパンフレットの印刷を予定しており、企業による生物多様性保全の推進に貢献して行きたいと考えています。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥92,380	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>当法人では設立時より、自然環境に関する調査等を通じて、環境政策に活かすことを目的として活動しています。徳島県内全域を活動対象とし、シカの被害状況など個人では対応できない課題を行政が関与することで県下の自然環境を守るために努力してきました。その一方で個々の力が必要だと感じておりました。</p> <p>より多くの人びとに活動を知ってもらうことで、自然に関心を持ち、現状を知ってもらいたいとの意向から、当法人の活動状況や取り組みを記載したパンフレットを作成、ホームページの一部改訂を行いました。ご寄附頂いた資金全額と当法人の資金を合わせて2,000部作成することができました。</p> <p>県下の環境保全に関心のある他の法人と協働して来年度には新たな事業を展開できる予定です。今後パンフレットを活用し、さらに県民一人一人に自然環境の大切さを広め、生き物と暮らせる環境の保全に取り組んでいきます。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥58,779	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>野生生物・生態系の情報や自然環境保全をPRするパンフレットの作成費に充当させていただきました。パンフレットは500部を作成できました。</p> <p>当会では調査事業などを通じて環境政策の策定に関わりながら、自然環境の保全に関する活動をすすめています。平成25年度に徳島県では、生物多様性とくしま戦略が策定されました。新しい戦略の策定であったことから、積極的に策定作業に関わって参りました。活動のなかで主なもの、市民と政策をつなぐ機会をつくったことでした。また、この活動のなかで、環境保護に関心の高いNPOによる「生物多様性とくしま会議」の運営を通じて、多くの方々に自然環境の保全活動に関心をもっていただくために、野生生物や生態系の情報をホームページやパンフレットで多くの方々に向けPRしました。</p> <p>今後は、自然環境保全が実現していくための活動に関わりながら、さらに関心をもった方々が参加できるように活動していきたいと考えています。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥20,286	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>昨年に引き続き、野生生物・生態系の情報や自然環境保全をPRするパンフレットの作成費に充当させていただきました。パンフレットは100部を作成できました。</p> <p>当会では調査事業などを通じて環境政策の策定に関わりながら、自然環境の保全に関する活動をすすめています。平成26年度は、「生物多様性とくしま会議」の運営を通じて、多くの方々に自然環境の保全活動に関心をもっていただくために、野生生物や生態系の情報をホームページやパンフレットで多くの方々に向けPRしました。</p> <p>今後、自然環境保全が実現していくための活動に関わりながら、さらに関心をもった方々が参加できるように活動していきたいと考えています。</p>	
平成27年度			
寄附額	¥7,117		
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>前年に引き続き、野生生物・生態系の情報や自然環境保全をPRするパンフレットの作成費に充当いたしました。パンフレットは50部作成できました。</p> <p>私たちは、生物多様性の保全とそれを実現するために活動しています。大学や高専などの研究機関、専門家、環境保護団体、企業や市民のネットワーク、行政機関との連携を活用して、効果的な活動を続けていきます。そして多くの方々に関心をもってもらう、活動にかかわっていただけるように、ホームページやパンフレットを通じてPRしていきます。</p> <p>今後も、より多くの方々に参加いただけるように、活動を続けていきます。詳しくはHPやFacebookをご覧ください。 (http://www.hozen-tokushima.org/)</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K060	団体名	特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター
連絡先 (電話／メール)	0889-40-0840	活動ホームページ (URL)	http://www.lutra.jp/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	四国ツキノワグマ保護プロジェクト		
寄附額合計	¥219,121		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥29,870	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>この寄附金については、家電エコポイントと併せて使用することを考えています。当初は平成23年12月頃に横浪半島生物総合学術調査報告書を配布する予定でしたが、寄附金が多く寄せられていることから、印刷物としての配布を検討しています。</p> <p>報告書については、編集作業もほとんど終了しています。配布予定は平成24年12月頃を予定しています。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥92,880	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>環境寄附をもとに横浪半島生物総合学術調査で実施した生物10分類(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、陸産貝類、甲殻類、きのこ類、植物)の結果についてとりまとめを行っています。</p> <p>当初は平成23年12月頃に「横浪半島生物総合学術調査報告書」をPDF形式で配布する予定でしたが、寄附金が多く寄せられていることから、前回繰り越した寄附金29,870円および今回の寄附金92,880円は全額繰越し、平成25年度内に印刷物として高知県内の全図書館に配布する予定です。また、この結果をもとに生物の保全の検討などや基礎情報の継続的な蓄積など有意義な活動を実施しています。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥67,879	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>過去に行われた調査に加え、平成24年度から平成25年度にかけて追加調査を実施し、その内容を加えた形で報告書の作成を行っています。現在、原稿の改定を進めており、10分野中、8分野で改定が終了しました。原稿の改定は平成25年度中には終了の予定です。報告書につきましては、カラー版を作成し、会員及び図書館へ無料配布する予定です。また、PDFファイルも作成し、ホームページからダウンロードできるようにします。</p> <p>報告書の発行が遅れているため、申し訳ありませんが、今回の金額に、前回の繰り越し金122,750円を加えた190,629円につきましては、次年度に繰り越したいです。報告書の発行は平成26年8月頃をめどにしたいと思います。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,376	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当センターでは、2002年から四国で絶滅に瀕しているツキノワグマの生態調査を実施し、それまで不明であった四国のツキノワグマの生態を多く解明してきました。また、その結果を用いて政策提言なども行っています。これまで多くの成果が得られていますが、毎年の活動費を確保するのは困難です。</p> <p>(使途)ご寄附いただいた17,376円と当センターの資金を合わせまして平成26年4月に自動撮影装置を1台購入出来ました。このような機材を用いてツキノワグマの生態を把握することは、急峻な四国の山地では効率的です。なお、繰越し金190,629円は「横浪半島生物総合学術調査報告書」の印刷に使用します(平成27年4月発行予定)。</p> <p>(効果)自動撮影装置を購入できたことにより、カメラ台数の確保ができ、より効率的に調査を実施することが出来ました。今後も調査を継続し、四国のツキノワグマを絶滅から救えればと考えています。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥11,116	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当センターでは、2002年から四国で絶滅に瀕しているツキノワグマの生態調査を実施し、それまで不明であった四国のツキノワグマの生態を多く解明してきました。また、その結果を用いて政策提言なども行っています。これまで多くの成果が得られていますが、毎年の活動費を確保するのは困難です。</p> <p>(使途)ご寄附いただいた11,116円は、当センターの資金と合わせてツキノワグマ捕獲時に使用する消耗品に使用しました。そのおかげで、ツキノワグマを1頭捕獲することができました。なお、繰越し金190,629円は「横浪半島生物総合学術調査報告書」の印刷に使用します(平成28年6月発行予定。発行後はHP(http://www.lutra.jp/))でも掲載予定)</p> <p>(効果)ツキノワグマを1頭捕獲することができたことにより、四国のツキノワグマの生態をより詳細に調査することができました。今後も調査を継続し、四国のツキノワグマを絶滅から救えればと考えています。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K061	団体名	財団法人阿蘇グリーンストック
連絡先 (電話／メール)	0967-32-3500	活動ホームページ (URL)	http://www.asogreenstock.com/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	阿蘇千年の草原を守る野焼き支援ボランティア活動		
寄附額合計	¥308,619		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥37,911	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)1999年に、7つの牧野組合(約1,000ha)に約110名の参加から始まった野焼き支援ボランティア活動ですが、今や5,000haを超え、年間延べ2,000名を超える参加ボランティアによる大規模な草原保全活動となっています。この野焼き支援ボランティア活動に対する地元住民や行政からの期待・評価も年々高まっており、今では阿蘇の草原保全には欠かすことのできない活動になってきました。</p> <p>(使途)この度の環境寄附金と当財団の資金を合わせまして、野焼き支援活動全体の活動費に充てました。初心者研修会のチラシ代、輪地切り支援活動のための刈り払い機・替刃の購入、ボランティアの安全対策のためのゴーグル、ゼッケン、腕章、ジェットシューターの購入などを行いました。</p> <p>(効果)お陰さまで、初心者研修会には前年を6割ほど上回る217名の参加がありました。また様々な備品の購入により、より安全な活動を目指していきます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥97,880	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>エコポイントからの環境寄附金は、阿蘇千年の草原を守る『野焼き支援ボランティア活動』に役立てました。夏から秋にかけては、春の野焼きの準備作業として、「輪地切り」という防火帯を作る草刈り作業があります。暑い中、刈り払い機を使用し、傾斜を上り下りする作業は、とても大変な作業ですが、地元の支援のために、毎年多くのボランティアが参加しています。</p> <p>この度の寄附金全額を使用して、輪地切り支援活動のための刈り払い機、替え刃、防塵メガネを購入しています。また、作業中の怪我や熱中症に備えて、救急用品の購入なども行っています。また、安全に作業を行うための『刈り払い機安全講習会』や『野焼き安全講習会』を年に数回開催し、万全の安全対策を図っています。この講習会における会場費や指導者の交通費等にも使わせていただいています。お陰様で今年の安全対策を万全にし、ボランティアも地元の方も安心して活動を行うことが出来ております。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥96,077	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>エコポイントからの環境寄附金は、阿蘇千年の草原を守る『野焼き支援ボランティア活動』に役立てました。野焼き支援ボランティアを育成する「初心者研修会」のチラシの印刷代の一部に使用させていただきました。</p> <p>今年の初心者研修会には2回合わせて160名ほどの参加があり、実際の野焼き支援活動にも多くの新人ボランティアが活躍しています。ボランティアに対する地元からの期待もますます高まっており、今後初心者やリーダーの育成に力を入れていきたいと思っています。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥60,585	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>エコポイントからの環境寄附金は、阿蘇千年の草原を守る『野焼き支援ボランティア活動』に役立てました。具体的には、野焼き支援ボランティアを育成する「初心者研修会」運営費の一部(指導リーダーの交通費)に使用させていただきました。</p> <p>今年の初心者研修会には3回合わせて194名の参加があり、実際の野焼き支援活動にも多くの新人ボランティアが活躍しています。ボランティアに対する地元からの期待もますます高まっており、今後も初心者やリーダーの育成に力を入れていきたいと思っています。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥16,166	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)阿蘇グリーンストックでは、野焼き支援ボランティアを育成する「初心者研修会」「ボランティアリーダー養成研修会」などを定期的に行い、ボランティアの育成やスキルアップに努めています。広大な阿蘇の草原を守るには、今や野焼き支援ボランティアの存在がなくてはならない状況にあります。</p> <p>(使途)環境寄附金は、阿蘇千年の草原を守る『野焼き支援ボランティア活動』の資金の一部として役立てました。</p> <p>(効果)この活動は、火を扱ったり、刈り払い機や大ガマなどの危険な機材を扱いますので、ボランティアの安全管理講習会の開催や、安全管理マニュアルの作成、ヒヤリハット集の作成など、ボランティア会員、事務局共に、徹底した安全管理を行っています。2014年度は年間延べ1955名のボランティアが阿蘇の草原保全のために活動しています。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K062	団体名	特定非営利活動法人沖縄県ダイビング安全対策協議会
連絡先 (電話／メール)	090-8910-4091	活動ホームページ (URL)	http://antaikyo.ti-da.net/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	ちゅら海環境保全事業		
寄附額合計	¥407,735		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥136,407	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)オニヒトデやレイシガイダマシ駆除および釣り糸撤去等の海中清掃活動を継続、今年は毎週水曜日を保全の日として定例化し、悪天候中止を除いて毎週保全活動を行いました。7月以降、繁忙期に入って中断しましたが、2012年3月より活動を再開しています。</p> <p>(使途)駆除事業にかかる備船燃料費、タンク代、保険料などの諸経費をエコポイント寄附金から捻出させていただきました。また残金はプールし、今後の活動に充てたいと考えています。</p> <p>(効果)石垣や宮古島、慶良間諸島ではオニヒトデの大発生がすでに始まっており、沖縄本島でも来年か再来年に大発生が予想されています。今年は適宜モニタリングを続け、適材適所の駆除活動を毎週継続したいと考えています。保全活動報告は当会サイトにて詳細を公開していますのでぜひご覧下さい。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥117,380	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>オニヒトデやレイシガイダマシ駆除および釣り糸撤去等の海中清掃活動を継続、毎週水曜日を保全の日に加えて木曜日を慶良間海域保全の日として定例化し、悪天候中止を除いて毎週保全活動を行いました。ただ後半は県からの予算が下りたためそちらを優先的に利用したためエコポイントからの執行が滞っていますが、今後の活動に活用させていただきます。</p> <p>(使途)前年度繰越金107,850円と併せ、総額225,230円から駆除事業、サンゴ被度調査等の事前の環境調査にかかる新たな手法を開発するべく、撮影機材を含む資機材を購入しました(総額323,965円)。不足分は家電エコポイントからの寄附も活用させていただいております。</p> <p>(効果)新たに開発した効率的かつ広範囲をモニタリングできる手法を導入し早急に対応が必要なエリアをより的確に抽出することが可能となることが期待される。保全活動報告は当会サイトにて詳細を公開していますのでぜひご覧下さい。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥102,469	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)本年度はサンゴとオニヒトデのモニタリングを中心に活動しました。沖縄県自然保護課の助成金を受け延30日、55地点でのモニタリングを行い、その成果は県自然保護課のサンゴモニタリングプラットフォームにてWeb公開される予定です。</p> <p>(使途)寄附金額 ※全額(102469円)は県助成のモニタリング事業において、自己資金分の一部に充当させて頂きました。</p> <p>(効果)今回のモニタリング事業では石垣、西表、慶良間等の離島も網羅し、かなり広範囲のサンゴの実情を確認できました。その詳細は県自然保護課のサンゴモニタリングプラットフォームにてWeb公開されます。今年もモニタリングを継続し沖縄サンゴ礁の保全に寄与したいと思っております。また必要に応じてサンゴ食害生物駆除活動に切り替えます。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥41,363	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)釣り糸撤去等の海中清掃活動を継続、7月中旬から9月いっぱいまで那覇空港で環境写真展、10月からは沖縄県の助成金を受けサンゴモニタリング調査を行いました。当初予定ではサンゴ移植となっておりますが、未だサンゴ移植に対するコンセンサスが会員間でなされていないため、安対協の環境基金に合算し、環境事業に順次活用させていただきました。</p> <p>(使途)総額41,363円を主にサンゴモニタリング調査(総額1,703,505円)のうち自己資金分(91,623円)の一部に充当させていただきました。</p> <p>(効果)今年のモニタリングでは本島中部を中心にこれまであまりデータのない離島も調査対象としました。特に伊平屋・伊是名島でのサンゴ状況はあまり知られておらず、貴重なデータになったと思っております。今年のモニタリングの成果はサイトで公開予定ですのでごらんください。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥10,116	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>2015年6月18日実施の読谷村残波岬海底釣り糸撤去事業費の一部として活用させていただきました。</p> <p>今回も軽トラック1台分、推定50kgほどの釣り糸やゴミを水深40mの海底より引き上げ、ほぼ10年にわたって行われた釣り糸撤去作業では総計1トン近くの釣り糸を回収し、海底の浄化に貢献しました。残念ながら当初予定していたサンゴ移植に関しては遺伝子攪乱など移植によるデメリットを考慮し実施に至ることはありませんでした。</p> <p>また勝手ながら当会は当初の目的を一応達成し、2015年6月31日をもって解散しました。長い間のご支援、ご協力に心よりの感謝を申し上げます。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K198	団体名	特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク
連絡先 (電話／メール)	0162-82-3950	活動ホームページ (URL)	http://www.sarobetsu.or.jp
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	サロベツの大地とあなたをむすぶプロジェクト		
寄附額合計	¥197,942		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥29,607	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>利尻礼文サロベツ国立公園のサロベツ原野においては2007年頃から公園区域内で特定外来生物オオハンゴンソウの群落が確認されています。この除去作業を地元のボランティアや国立公園パークボランティアの方々と継続実施してきました。オオハンゴンソウは種子だけでなく取り残しの地下茎からも生長可能であり、根絶するには文字通り根まで取り除く必要があります。</p> <p>これまでに頂いたご寄附は、根まで除去できる道具(根起し等)の購入及び除去した外来種の焼却処分費に当てさせていただきました。ありがとうございます。</p> <p>今年度からは、取り残した根の掘り起しや発芽した個体の除去に作業が移行しており、こうした除去道具を使うことによって素手よりも効率的に作業が行えました。今年度は3回イベントを実施し延べ67人が参加、確認範囲内の外来種(20kg)の除去を終えることができました。なお、根絶のために除去作業は今後も継続していきます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥91,976	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>日本最北の国立公園、利尻礼文サロベツ国立公園のサロベツ地区の日本海の海岸線には、長い年月をかけて形成された稚咲内海岸砂丘帯があり、砂丘の森林や砂丘間の湖沼群など、多様性に富んだ自然環境がみられます。海岸線に沿って南北に20km伸びるこの砂丘林帯の中で最も日本海側に位置するミズナラを中心とする砂丘林は、海からの冷たい風を防ぐ防風林としても重要ですが、一部で立ち枯れて消失してしまっています。この失われてしまった森林を蘇らせるために地元の人たちが、地元のドングリから苗木を育て植樹を行っています。</p> <p>頂いたご寄附(91,976円)は、この森林の管理に必要な資機材(杭、充電式丸鋸等)の購入費とさせていただきます。</p> <p>本年度で植樹活動も8年目を迎え、植樹予定地68区画(1区画:10m×10m)の全ての植樹を終えることができました。今後は豊かな森に育つように管理を行っていきます。ありがとうございました。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥51,772	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>利尻礼文サロベツ国立公園サロベツ地区の海岸線には長い年月をかけて形成された海岸砂丘林があります。砂丘部に発達する森林と、低地部に広がる湖沼群からなる多様性に富んだ環境を有し、原生の自然を残す貴重な場所です。こうした変化に富んだ環境には、大型哺乳類のヒグマを含め多種多様な生物が生息しています。近年、砂丘林を越冬地として多くのエゾシカが集まっています。このエゾシカたちは砂丘林内の植生に影響を与え、また、夏期には周辺の牧草地や湿原の植物に影響を与えています。</p> <p>こうした現状をきちんと把握し対策を講ずるため、このエゾシカ個体群の調査を開始しました。いただいたご寄附(51,772円)は、この調査に使う機材(自動撮影カメラ、調査用スキー等)の購入費とさせていただきます。</p> <p>これらの機材を使って、エゾシカ個体群の通年の行動、生息環境等の調査をしていきます。ありがとうございました。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,476	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>利尻礼文サロベツ国立公園サロベツ地域には、月一回ペースで地域の子どもの活動する「なまら！！サロベツ∞クラブ」があります。渡り鳥の観察、木道の植物調査・地図作り、カヤック、キャンプ、スノーシュー、砂丘林の植樹など様々な野外体験から自然を感じ、また、地域の人々と交流して、人・地域・自然を愛する心を持つ次世代の環境リーダーに育つことを目標に実施しています。</p> <p>今回いただいた寄附(¥17,476)は、夏のキャンプの備品購入に使わせていただきました。新しいメンバーが年々増えているため、寝袋を追加する際の一部として使わせていただきました。</p> <p>今回の購入により、これまでの倍、10名の子ども達がキャンプに参加できるようになりました。今年のキャンプには8人が参加し、サロベツの短い夏を満喫し、稚咲内の浜辺でネイチャーゲーム、ゴミ拾いを行い、夜はみんなで料理を作り楽しく過ごすことができました。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥7,111	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)利尻礼文サロベツ国立公園の玄関口・サロベツ原野では、地域の子どもたちを対象に、春と秋には渡り鳥の観察、夏はキャンプ、秋はミズナラ苗木植樹、冬はスノーシューなど様々な自然体験活動を通じて、人・地域・自然を愛する心を養い、次世代の環境リーダーを育成しています。</p> <p>(使途)いただいた寄附(¥7,111)は、夏のキャンプで安全に水辺活動を行うためのライフジャケット購入費として使わせていただきました。新しいメンバーが年々増えているため備品が不足しており、ご寄附いただけで大変助かりました。</p> <p>(効果)ライフジャケットにより、キャンプに参加した12名の子ども達が安全に、雄大な自然の中でカヤックをしたり泳いだり、サロベツの短い夏を満喫し、楽しい思い出を作ることができました。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K199	団体名	特定非営利活動法人川島ネイチャークラブ
連絡先 (電話／メール)	049-297-0541	活動ホームページ (URL)	http://kawajimanc.eco.coocan.jp/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	自然環境調査保全事業		
寄附額合計	¥201,241		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥31,907	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>川島ネイチャークラブの23年度事業計画の一部に充てました。</p> <p>(1)平成23年度から始めた、「ホタルの里づくり」の費用に充てました。 (2)事務局で使用中のパソコン用USB切替器購入費用に充てました。</p> <p>USB切替器の設置によって、パソコンによる事務作業の効率化を図ることができました。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥94,876	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>主に、事務局費用に充てました。</p> <p>(1)平成24年2月9日に、事業活動団体及び活動スタッフの所在を明確にするために、川島ネイチャークラブの小旗及び腕章の作成費用に充てました。これによって、団体活動の宣伝及び活動スタッフの一層の充実を図ることができました(3.5万円)。 (2)その他、事務局の諸費用(レコーダー購入費)に充てました(3万円)。レコーダーは講習会、ワークショップ等の記録に大変有用でした。 (1)～(2)の諸費用合計6.5万円。</p> <p>残金は次年度繰越金とし、平成25年度の新規事業予定の「川島町の貴重生物学習・貴重生物保全事業」の費用等に充てる予定です。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥50,772	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>自然環境調査保全事業の、ホタルの里づくり活動費用に充てました。</p> <p>この活動は、川島町とも連携しながら推進しています。ホタルの里づくり事業の消耗品総費用は25万でした。主な項目は(1)印刷用トナーカートリッジ及びインクカートリッジ(2)参考書(3)試験用ホタル田んぼ整備用資材(4)同ホタル田んぼ近隣農業用水路及び同田んぼの水質調査費(外注)等。</p> <p>この整備によって、平成25年5月に整備した試験用ホタル田んぼへのヘイケボタルの幼虫の放流を行った結果、6月には成虫の光を確認することができました。7月には同田んぼにて地域住民参加による、ヘイケボタル成虫の放流鑑賞会を開催することができました。尚、この活動は、ホタル再生事業として今後も継続して行きます。皆様からの環境寄附に対して御礼申し上げます。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,575	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>平成25年度の川島町における自然環境調査保全事業の主な活動では、ホタルの里づくり、農業用水路の生き物調査、県民参加モニタリング調査等を行いました。また、自然環境学習体験事業では、水辺の貴重な生物学習会を開催いたしました。</p> <p>前記の環境寄附対象期間の受取寄附金額の合計17,575円は、前記の事業活動を展開する場合に必要な事務局費用に活用させていただきました。具体的には、期中に以来から使用してきたカラープリンターの老朽化による使用不能に伴い、新規カラープリンター購入費用に全額充当させていただきました。</p> <p>カラープリンターは、事業活動の記録写真用、活動報告書、事業報告書等用に変換して使用させていただきます。尚、平成25年度の当法人事業内容につきましては、当法人ホームページの事業活動メニューから検索できます。皆様方からの環境寄附に対して心から御礼申し上げます。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥6,111	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>平成27年度の自然環境調査保全事業の主な事業の一つである、川島ホタル再生プロジェクト(川島町で絶滅してしまったホタル再生活動)において、事業活動を推進するために必要な事務局消耗品(ファクスリボンの予備用、機能不全となったレーザーマウス等)の購入費用に充当させていただきました。</p> <p>平成25年度から、ヘイケボタルの再生イベントとして、川島町正直地区の長楽用水路で、「ホタル観賞放流会」(27年度で3回目)を開催しております。この事業は今後も継続して行きます。皆様からの貴重な環境寄附に対して御礼申し上げます。</p>		

住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業 環境寄附対象団体用 事業報告書			
事業者コード	K200	団体名	特定非営利活動法人エコロジー夢企画
連絡先 (電話／メール)	03-3886-6554	活動ホームページ (URL)	http://www.ecoyume.net
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	エコ夢探検隊と綾瀬川の生き物をしらべよう！		
寄附額合計	¥211,740		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥29,607	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>22年10月、エコ夢探検隊お月見コンサート98名参加、23年7月10日エコ夢探検隊昆虫観察と魚調査(放射能懸念のため11名参加のみ)、10月10日お月見コンサートと昆虫観察48名参加を実施しており、その投網等観察用具の借用料とコンサート用備品の購入に当てさせていただいた。</p> <p>上流側の魚道が開口部が大きすぎたために土砂の流入があり、7月調査では、魚の種類が減ってしまっていた。ギンヤンマは多く飛んでいてホシササキリ、イモサルハムシ、コムラサキなど初記録の昆虫が10種出た。見守る人を増やしたいと始めたお月見コンサートでは、綾瀬在住の胡弓の演奏家を招き「環境がいいと文化が育つ。文化のあるところには良い環境が残る」ということを実感してもらう目的で演奏会を行い効果を上げた。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥92,276	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>23年8月19日、エコ夢探検隊昆虫観察と魚調査(放射能懸念のため積極的に呼び掛けず15名参加)、綾瀬川両岸で昆虫観察、魚の観察会をした。魚道からの土砂の流入が多いため、魚の種類・数が減ったが、25年1月、国土交通省が魚道の改修工事してくれたのは、調査活動の大きな成果。</p> <p>漁網等の借用料が5万円、講師費が5万円。9月10日、お月見コンサートと昆虫観察を企画し、盲のバイオリニスト穴澤雄介氏を招いていたが、豪雨のため中止となった。違約料として2万5千円を支払ったが、来年同じ企画を半額で受け取れるとのこと。</p> <p>エコ夢探検隊のチラシ印刷費・文具等で2万円を使ったため、その一部に当てさせていただき、寄附金は使い切った。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥65,972	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>24年7月7日、エコ夢探検隊と綾瀬川の生物を調べよう！を実施、参加者68名の親子。足立区桑袋ビオトープ公園で昆虫観察をした後、対岸の八潮市大曾根ビオトープまで歩いて移動しながら綾瀬川を観察。大曾根ビオトープでは、昆虫観察の後、魚の採取と観察を行い、自分の一番好きな昆虫か魚の観察記録を書いた。</p> <p>寄附金で文具などを購入した。紙芝居「水辺の安全」「川の温暖化？」を解説を交えてお話しした。チラシ印刷費として2万円、講師謝礼として4万円、その他資材購入費の一部として使わせていただいた。</p> <p>10月19日(土)エコ夢探検隊「お月見コンサート」を実施。参加者52名の親子。八潮市大曾根ビオトープで昆虫の観察の後、盲目のバイオリニスト穴澤雄介さんと高木将夫さんの演奏と童話の朗読を行い、夕方から夜になる自然地のようすを観察した。</p> <p>チラシ印刷費として2万円、講師料は昨年雨中止のため半額お支払したので、今年は残額の25000円で演奏を行ってくださった。一部を寄附金からまかなうことができた。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,774	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>エコロジー夢企画では、1級河質汚濁ファースト1を連続してもらっていた綾瀬川の浄化提案を行い、2つのビオトープを作ってもらえることが出来たことから、経過を見るために親子生物観察会を2003年からずっと続けています。</p> <p>ご寄附頂いた資金は、観察用具や備品購入に充てさせていただきました。綾瀬川桑袋ビオトープ公園と大曾根ビオトープで25年7月5日、9月6日に開催されたエコ夢探検隊「綾瀬川の魚と昆虫を調べよう」の魚の観察用具借用料10,000円、魚キラー1,496円、胴長2,037円、封筒等文具5,728円の費用に充てさせていただきました。</p> <p>7月5日参加者は23名、9月6日は29名でした。その他、アユの遡上調査を5月17日と10月25日に行い、アユが綾瀬川を往復していることを突き止めました。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥6,111	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>2014年度は、2回のエコ夢探検隊と2回の魚類調査を実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5/17 岩槻区加倉の堰下で魚調査 7/5 「エコ夢探検隊」足立区桑袋と八潮市大曾根ビオトープ「綾瀬川の昆虫と魚を調べよう！」 9/6 八潮市大曾根ビオトープで昆虫調査とお月見コンサート 10/25 大曾根ビオトープで魚調査 <p>2015年度は、6回の魚調査を実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6/13 岩槻区加倉の堰下で魚調査 8/9 岩槻市加倉大橋井堰下 アユの成長調査 10/3 岩槻市加倉大橋井堰下 産卵場所調査 10/11 「エコ夢探検隊」八潮市大曾根ビオトープ「海に帰るアユ(流下仔アユ)の調査と魚調査」 10/23、24 海に帰るアユ(流下仔アユ)の調査と魚調査 岩槻から上流 <p>詳しい内容は上部URLより、HPをご覧ください。</p> <p>ご寄附は、魚調査用アクリルケース・スポイト等の備品購入費の41,795円の一部に充当しました。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K201	団体名	森林塾青水
連絡先 (電話／メール)	047-712-6861	活動ホームページ (URL)	http://www.commonf.net/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	草原の持続的な管理・利用		
寄附額合計	¥235,338		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥46,607	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体は、みなかみ町藤原地区のかつて入会地だったフィールドを、野焼き、除伐、茅刈りなどの再生活動を地元と行政とでおこなっています。年間8回の実践講座を開催し、総勢200名が参加して、草原の野焼き、青刈り、茅刈り、二次林の伐採、薪づくり、などの作業を行っています。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた46,607円は、遠隔地であるため交通費等の負担の大きい学生の旅費に全額使わせていただきました。</p> <p>(効果)学生の参加を促進することができ、年間の総勢25名が活動に参加してくれました。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥92,075	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体は、みなかみ町藤原地区のかつて入会地だったフィールドを、野焼き、除伐、茅刈りなどの再生活動を地元と行政とでおこなっています。年間8回の実践講座を開催し、総勢200名が参加して、草原の野焼き、青刈り、茅刈り、二次林の伐採、薪づくり、などの作業を行いました。特に今年は10月に全国草原サミット・シンポジウムが開催され、エクスカージョンとして茅刈りをおこない、50名の方の参加をいただきました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた92,075円は、遠隔地であるため交通費等の負担の大きい学生の旅費(電車代やレンタカー借入、高速代、ガソリン代に全額使わせていただきました。</p> <p>(効果)金額負担が少なくなったおかげで、学生の参加を促進することができ、年間の総勢32名が活動に参加してくれました。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥61,271	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体は、みなかみ町藤原地区の入会地だったフィールドの再生活動を地元と行政とでおこなっています。年間8回の実践講座を開催し、総勢230名が参加して、草原の野焼き、青刈り、茅刈り、二次林の伐採、薪づくり、などの作業を行いました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた61,271円の内、地元の古老が刈った茅の一人分800束の買取額に1束50円上乗せした総額40,043円と、生物調査旅費等に21,228円、合計61,271円(全額)を充当させていただきました。</p> <p>(効果)今年は生き物調べや研修に参加ができネットワークを広げ技術を習得できました。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,274	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体は、みなかみ町藤原上ノ原のかつて入会地だった、草原と二次林21haの管理を、野焼きや茅刈り、伐採、防火帯づくりなどの作業を年6回行っています。</p> <p>(使途)今回の住宅エコポイント17,274円は、生物多様性の「上ノ原」の生き物調査(6月、7月、9月)3回の交通費の一部として、使わせていただきました。</p> <p>(効果)草原の生き物は種類も多く、昆虫は683種を見つけることができました。今後は生き物情報を、一般の方の観察会資料として使い、草原の生き物の興味を示してもらえようと考えています。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥18,111	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当団体は、みなかみ町藤原上ノ原のかつて入会地だった草原と二次林21haの管理を、野焼きや茅刈り、伐採、防火帯づくりなどの作業を年6回行っています。草原部分は、野焼き、茅刈り、除伐などで人の手が入ることで、草原が維持されています。草原は昆虫や草花が多く、毎年生物調査を専門家にボランティアでもらっています。</p> <p>(使途)今回の住宅エコポイント18,111円は、生物多様性の「上ノ原」の生き物調査(6月、7月、9月)3回の交通費の一部として、使わせていただきました。</p> <p>(効果)草原の生き物は種類も多く、昆虫は800種を見つけることができました。またその成果を12月12日のセミナーで発表し、20名の参加者がありました。その中で、他にはあまりいないヒメシジミが多いと聞き、今後はその生き物情報を一般の方にPRして、草原に興味を持ってもらうようにしたいと考えています。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K202	団体名	特定非営利活動法人ねっとわーく福島潟
連絡先 (電話／メール)	025-387-0284	活動ホームページ (URL)	http://www.geocities.jp/fukusimagata/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	生き物豊かな福島潟の保全再生・普及活動		
寄附額合計	¥255,834		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥34,306	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、1999年より毎年5月末、福島潟の学習園の池から得たマコモの苗(株)を潟の中央部に植栽して、それを採食するオオヒシクイの保護に努めてきた。2010、2011年は12回、13回目となる。苗の採取は主に、地元の高校生を主体としたボランティアで行い、植栽は広く市民に呼びかけ実施してきた。</p> <p>(使途)この度ご寄附をいただいた34,306円は、22年度のマコモの植栽に要した27,100円と希少種の定着作業8,112円に使わせていただきました。不足金906円は、次年度報告の環境寄附金より支出の予定です。</p> <p>(効果)マコモは約500株、2,000本を植栽した。植栽後新潟大学の学生とも協力して、生育調査も実施した。冬期マコモを採食するオオヒシクイに活用され、保護に多少とも役立っているもの思う。何よりも、この事業を続けることによって、福島潟の自然保全への市民の関心が高まることを期待しています。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥109,674	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)マコモの植栽は、2012年で14回目となった。苗の採取は地元の高校生を主体としたボランティアで行い、植栽は、広く市民に呼びかけ実施した。また、自然学習園の希少植物の保護活動にも高校生や一般市民が活動した。</p> <p>(使途)今回の寄付金109,674円は、前回報告の不足金906、マコモの植栽用消耗品3,594、講師謝金を含む希少種保護活動費18,689、除草機2台51,600、計74,789円に使用した。繰越金34,885円は25年度マコモの植栽費に支出の予定。</p> <p>(効果)マコモは植栽により、冬季に訪れているオオヒシクイ等の餌になっている。肩掛け草刈機の購入により、除草がより効率的に行われた。希少植物の定着率も良くなっていると思われる。何よりも自然学習園に生育する希少植物が市民に親しまれているとともに、作業に参加した高校生や市民が福島潟の自然保全への関心が高まっていることは嬉しいことである。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥83,970	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)マコモの植栽は、2013年で15回目となった。苗の採取は、地元の高校生を主体としたボランティアで行い、植栽は、広く市民に呼びかけて実施した。また、自然学習園の希少植物の保護活動にも高校生や一般市民が活動した。</p> <p>(使途)今回の寄附金83,970円繰越金34,885円計118,855円は次の通り、支出した。マコモの植栽、アルバイト料12,283円、希少植物等保護活動講師謝金10,000円、希少植物(サワオグルマ)の自然学習園への定着作業代4,678円、計16,971円。繰越金91,894円となった。繰越金のうち、55,838円は、すでに25年度のマコモの植栽と希少植物の保護作業に支出しているが、これは次年度の報告となる。</p> <p>(効果)マコモの植栽により冬季に福島潟へ訪れるオオヒシクイの餌となっているが、定着・増殖には至っていない。希少植物サワオグルマの定着作業は、一般市民にも関心が高まり、2回植栽と種まきのイベントを行い、約1,000株以上増殖し、定着した。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥19,274	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)マコモの植栽は、2014年で第16回となった。苗の採取は、地元の高校生を主体としたボランティアが行い、植栽は、広く市民に呼びかけ実施した。また、自然学習園の希少植物の保護活動にも高校生、一般市民が活動した。</p> <p>(使途)前年度の繰越金91,894円はマコモの植栽活動に24,023円、オオヒシクイ越冬調査のための観測機器に31,500円、希少種保護活動消耗品に31,000円支出した。未支出の繰越金5371円及び今回寄附金19,274円は、次年度に繰り越し平成26年度マコモの植栽に充てた。これについての精算は次年度に行う。</p> <p>(効果)マコモは植栽により冬季に訪れるオオヒシクイ等の餌になっている。平成26年1月の野鳥調査では3,400羽のオオヒシクイを確認することができた。また、希少植物サワオグルマの定着作業により、その存在が一般市民にも知られてきている。</p>	
平成27年度			
寄附額	¥8,610		
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)オオヒシクイの食草であるマコモを植栽しており、その活動は平成27年で第17回となった。苗の採取は地元高校生や市民を主体としたボランティアが行い、植栽は広く市民に呼びかけ実施した。</p> <p>(使途)前年度寄附金の繰越金24,645円は、平成26年5月に実施したマコモの植栽活動に充てた。また、その後の寄附額8,610円については、平成27年5月に実施したまこもの植栽活動に充てた。</p> <p>(効果)マコモは冬季に訪れる渡り鳥オオヒシクイの食草である。平成26年11月には3500羽の、平成27年11月22日には4500羽のオオヒシクイを数えることができたことから、当地において安心して過ごせる環境を保つ助けになっていると自負する。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K203	団体名	特定非営利活動法人信越トレイルクラブ
連絡先 (電話／メール)	0269-69-2888	活動ホームページ (URL)	http://www.s-trail.net/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	関田山脈周辺の生物多様性保全に向けた活動		
寄附額合計	¥245,680		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥33,325	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)長野新潟の県境にあるロングトレイルを、両県が連携し整備を行っていますが、H23年度は当法人担当区間を67日、のべ224名(ボランティアを含む)にて整備を行い、多くの利用者の方にトレッキングをお楽しみ頂きました。しかし整備ボランティアの人員、移動車両費、整備機材が不足していました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた33,325円と当法人の資金を合わせまして、整備時の移動車両ガソリン代に使用させて頂きました。</p> <p>(効果)広範囲にわたる整備区間を整備することができました。今後も自然環境を守りながら、安全に利用して頂けるトレイルを目指していきます。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥100,929	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)長野新潟の県境にあるロングトレイルを、両県が連携し整備を行っていますが、H24年度は当法人担当区間957日、のべ342名(ボランティアを含む)にて整備を行い、多くの利用者の方にトレッキングをお楽しみ頂きました。しかし整備中の移動車両費、整備機材が不足していました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた100,929円と当法人の資金を合わせまして、整備時の移動車両ガソリン代、無線機、作業時の傷害保険代に使用させて頂きました。</p> <p>(効果)広範囲にわたる整備区間を整備することができました。今後も自然環境を守りながら、安全に利用して頂けるトレイルを目指していきます。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥83,543	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)長野新潟の県境にあるロングトレイルを、両県が連携し整備を行っていますが、H25年度は当法人担当区間71日のべ216名(ボランティア含む)にて整備、自然環境調査を2日間のべ29名にて行い、多くの方にトレッキングをお楽しみ頂きました。しかし整備中の移動車両費が不足していました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた83,543円を、整備時の移動車両ガソリン代と作業時の傷害保険代に使用させて頂きました。</p> <p>(効果)広範囲にわたる整備区間を整備することができ、安全で楽しいトレッキングの普及につながりました。今後も自然環境を守りながら、安全に利用して頂けるトレイルを目指します。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥18,273	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)長野新潟の県境にあるロングトレイルを、両県が連携し整備を行っていますが、H26年度は当法人担当区間を62日間のべ233名(ボランティア含む)にて整備、自然環境調査を2日間のべ15名にて行い、トレイルの維持管理に務め、多くの方にトレッキングをお楽しみ頂きました。しかし整備作業時の傷害保険代が不足していました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた18,273円と当法人の資金を合わせ、整備作業時の傷害保険代に使用させて頂きました。</p> <p>(効果)広範囲にわたる整備区間を事故なく整備することができ、安全で楽しいトレッキングの普及につながりました。今後も自然環境を守りながら、次世代へ続くトレイルづくりを目指し活動を行ってまいります。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥9,610	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)長野新潟の県境にあるロングトレイルを、両県が連携し整備を行っていますが、H27年度は当法人担当区間を52日間のべ257名(ボランティアを含む)にて整備、自然環境調査を1日間10名にて行い、トレイルの維持管理に務め、多くの方にトレッキングをお楽しみ頂きました。しかし整備作業時の傷害保険代が不足していました。</p> <p>(使途)この度ご寄附頂いた9,610円と当法人の資金を合わせ、整備作業時の傷害保険代に使用させて頂きました。</p> <p>(効果)広範囲にわたる整備区間を安心して整備することができ、安全で楽しいトレッキングの普及につながりました。今後も自然環境を守りながら、次世代へ続くトレイルづくりを目指し活動を行って参ります。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K204	団体名	特定非営利活動法人おおい環境保全フォーラム
連絡先 (電話／メール)	097-529-5046	活動ホームページ (URL)	http://www9.plala.or.jp/kei_uchida/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	森と海を結ぶ豊かな生態系創生事業		
寄附額合計	¥202,535		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥31,150	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 私たちNPOは、自然と共生した持続可能な地域づくりのために、特に近年注目されている里山と里海の生態系の保全活動を重視した活動を実施しています。里山、里海環境の保全の重要性を広報、啓発するための自然観察会などの環境教育活動を市民や子供を対象に実践しています。</p> <p>(使途) 寄附金は子供たちを対象にした自然観察会のために必要な虫取り網と虫かご計30セットと簡易水質検査キット5セットを31,150円で購入しました。これにより9月及び10月に計4回の小学生を対象にした自然観察会を3回実施することができました。</p> <p>今後はこれらの用具等を有効活用し環境教育の支援事業を実施する予定です。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥93,900	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 私たちNPOは、自然と共生した持続可能な地域づくりのために、注目されている里山と里海の生物多様性と生態系の保全活動を重視した活動を実施しています。里山、里海環境の保全の重要性を広報、啓発するための自然観察会などの環境教育活動を市民や子供を対象に実践しています。</p> <p>(使途) 23年度に頂いた寄附金は子供たちを対象にした自然観察会や環境授業のために必要な生物調査機材及び教材(パネル等)を36,900円で購入しました。これにより小学生や市民を対象にした自然観察会や環境授業を5回実施し効果的な環境啓発活動を実施することができました。24年度に頂いた寄附金57,000円は25年度に繰越し大分県佐伯市で開校を準備している自然学校の環境授業用の自然観察機器の購入費用に充てたいと考えています。</p> <p>今後は自然学校を活用した質の高い環境教育プログラムを積極的に推進する予定です。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥52,497	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 私たちNPOは、自然と共生した持続可能な地域づくりのために、注目されている里山と里海の生物多様性と生態系の保全活動を重視した活動を実施しています。里山、里海環境の保全の重要性を広報、啓発するための自然観察会などの自然体験活動や環境教育活動を市民や子供を対象に実践しています。</p> <p>(使途) 24年度寄附金のうち次年度に繰り越した57,000円と25年度寄附金15,000円を加えた72,000円で野鳥観察に使用するフィールドスコープ2台と双眼鏡5台を購入しました。25年度寄附金残金37,497円は26年度に繰越し間越ネイチャーセンターの自然観察用具の購入費用に充てたいと考えています。</p> <p>(効果) これまでに寄附金で購入した観察機器を平成26年5月に開設する自然体験館で活用し、質の高い自然体験プログラムや環境教育プログラムを積極的に推進して行きたいと考えています。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,378	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(事業概要) 私たちは、自然と共生した里山里海の生物多様性と生態系の保全を目標に活動しています。特に平成26年度は、里海環境の保全の重要性を広報、啓発するための自然観察会や自然体験を通じた環境教育活動を市民や子供を対象に合計10回開催しました。</p> <p>(使途) 26年度寄附金17,378円と前年度繰越金37,497円を合わせ54,875円は、野鳥や野生動物を撮影する赤外線自動撮影カメラ1台とカメラ用電池、SDカード(購入価格58,000円)の購入資金として活用させて頂きました。普段子供たちは目にすることのない野生動物の生態や生活を観察するのに活用しています。</p> <p>(効果) これまでに寄附金で購入した観察用具等は昨年開設したネイチャーセンターで更に活用を推進し、平成26年度は延680人の子供たちに質の高い自然体験プログラムと環境教育プログラムを提供し高い評価を受けています。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥7,610	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要) 私たちは、自然と共生した里山里海の生物多様性と生態系の保全を目標に活動しています。平成27年度は、里海環境の生物多様性の保全をテーマとして子供を対象に体験型環境授業を5回開催しました。</p> <p>(使途) 26年5月から27年7月までの寄附金7,610円は、里海の象徴種「ウミガメ」の生態調査体験プログラムで環境授業で使用するインナービットタグ(標識)の購入資金の一部として活用させて頂きました。(20個×850=17,000円)</p> <p>(効果) 普段、子供たちが野生動物の生態や生活史を観察することのできる意義のある体験プログラムとして夏休み期間中に計320人が市内外から参加しました。これまでの住宅エコポイント環境寄附金で購入した観察用具等は、今後は当NPOが運営する「はごこネイチャーセンター」で、多くの子供たちが参加する自然体験プログラムや環境教育プログラムで有効に活用されます。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K205	団体名	特定非営利活動法人西表島エコツーリズム協会
連絡先 (電話／メール)	0980-85-6331	活動ホームページ (URL)	http://iriomote-ea.com/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	サンゴ礁保全モニタリング調査リーフチェックの推進		
寄附額合計	¥583,589		
事業報告	平成23年度		
	寄附額	¥56,917	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、サンゴ礁保全のためにリーフチェックを行っているダイビング事業者を支援している。西表島周辺海域で年1回ずつ行われてきた3カ所の調査ポイントのうち、2カ所の調査に研究者を派遣してきた。しかし、事業者の廃業により1カ所は休止状態になった。</p> <p>(使途)この度ご寄附いただいた56,917円により、参加しやすい環境整備として、平成23年2月に必要な機材(100mメジャー、クリップボード、耐水紙、ロケット鉛筆)を2セット分と保管用の衣装ケースを購入し、竹富町ダイビング組合事務局(ダイビングチームうなりざき)が保管するよう引き渡した。</p> <p>(効果)新たな機材の購入により、2本の調査測線の設定を1度に行うことができるようになり、調査活動の労力を大幅に減らせるようになっただけでなく、攪乱の減少により調査の精度を向上させることができるようになった。</p>	
	平成24年度		
	寄附額	¥237,404	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>当法人では、竹富町ダイビング組合と共同で、サンゴ礁の状態をモニタリングするリーフチェックを西表島で実施しています。リーフチェックの質の向上のため、日本に分布する造礁サンゴ80属の分類ができるようになるための「サンゴの分類と同定ワークショップ」を開催しました。</p> <p>講師に西平守孝氏(東北大学名誉教授、動物生態学)を招き、全4回の講座を4月11日(水)～12日(木)と5月9日(水)～10日(木)の日程で実施しました。会場に琉球大学熱帯生物圏研究センター西表実験所を利用しました。参加者は竹富町ダイビング組合員を中心に17名でした。参加者は造礁サンゴの同定ができるようになり、調査の質の向上が期待されます。また、サンゴを食害するオニヒトデの駆除作業の機材を購入し、安全なオニヒトデ駆除作業ができるようになりました。</p> <p>未使用の寄附金が10万円あり、これで平成25年度にリーフチェックの普及啓発事業を実施します。</p>	
	平成25年度		
	寄附額	¥245,991	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、竹富町ダイビング組合と共同で、サンゴ礁の状態をモニタリングするリーフチェックを西表島で継続的に実施しています。また、近年大発生しているサンゴを食害するオニヒトデの駆除作業にも協力しています。</p> <p>(使途)リーフチェックの普及啓発のためのリーフレット制作に150,000円を、また、オニヒトデ駆除作業に必要な機材(注射器、チューブ、酢酸)の購入に110,665円を使わせていただきました。</p> <p>(効果)リーフレットの配布により、サンゴ礁保全の重要性を広く一般にも啓発することができ、今後一般ダイバーなどの活動への積極的な参画・支援が期待できます。オニヒトデ駆除作業は、消耗品である機材の購入により、継続して行えるようになりました。未使用の寄附金が85,326円あり、平成26年度に、昨年実施して好評であった「サンゴの分類と同定ワークショップ」を再度実施する予定で、調査の更なる質の向上が期待されます。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥28,196	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、竹富町ダイビング組合と共同で、サンゴ礁の状態をモニタリングするリーフチェックを西表島で継続的に実施しています。また、近年大発生しているサンゴを食害するオニヒトデの駆除作業にも協力しています。</p> <p>(使途)リーフチェックやサンゴ礁保全の普及啓発のためのリーフレットの増刷に30,000円、オニヒトデ駆除作業に必要な機材(注射器、チューブ、酢酸)の購入に61,118円を使わせていただきました。</p> <p>(効果)リーフレットの配布により、サンゴ礁保全の重要性を広く一般に啓発することができ、サンゴ礁保全活動への積極的な参画・支援が期待できます。オニヒトデ駆除作業は、消耗品である機材の購入により、継続して行えるようになりました。昨年度からの繰越寄附金が85,326円あり、合算して未使用の寄附金が22,404円ありますが、平成27年度のオニヒトデ駆除のための消耗品類の購入に充てる予定です。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥15,081	
実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当法人では、竹富町ダイビング組合と共同で、サンゴ礁の状態をモニタリングするリーフチェックを西表島で継続的に実施しています。また、近年大発生しているサンゴを食害するオニヒトデの駆除作業にも協力しています。</p> <p>(使途)前年度の繰越金22,404円と今回の寄附15,081円の合計37,485円に、当法人の資金を合わせまして、平成27年3月と6月にオニヒトデ駆除作業に必要な機材(注射器、酢酸)を購入しました。オニヒトデの発生は終息が見えないため、サンゴ礁を守るためには地道に駆除作業を継続するしか方法はありません。</p> <p>(効果)オニヒトデ駆除作業には、消耗品である機材が必要不可欠であるため、ご寄附によって継続した活動が支えられています。今後も駆除作業を続けながら、地域住民や子供たちへサンゴ礁や海の生き物のすばらしさを伝える普及啓発にも力を注いでいきたいです。</p>		

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K230	団体名	特定非営利活動法人自然環境復元協会
連絡先 (電話／メール)	03-5272-0254	活動ホームページ (URL)	http://www.narec.or.jp/
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	地域の絆を深め 公園や緑地などの身近な自然を保全する活動		
寄附額合計	¥86,355		
事業報告	平成25年度		
	寄附額	¥52,974	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>公園や里山など、身近な緑の保全活動を行う地域団体は、高齢化や後継者不足といった課題を持つ団体が数多くあります。次世代育成が急務と言われる中、当法人ではそうした団体の活動支援と、若者の身近な緑のボランティア活動への参加促進のため、東京・神奈川・埼玉のフィールドで、延べ56回、688人のボランティア派遣を実施しました(平成25年度)。</p> <p>今回ご寄附頂いた資金は全て、次世代育成のための費用として活用させて頂き、今年度は3ヶ所の新たなフィールドに派遣を行う事ができました。</p> <p>登録者の約半数が20代で、ボランティア参加者の中には、10回以上参加する方も何人もいらっしゃいます。派遣先の団体の方にも「作業がはかどる、若い力をもらえる」と好評です。休日の午前中のみ、という気軽な活動ですので、お近くの方は是非ご参加頂ければと存じます。今後も引き続き、次世代育成のための派遣活動を実施して参ります。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥25,273	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会では、高齢化により活動困難な環境保全団体と環境ボランティアをやりたい人を結ぶ「レンジャーズプロジェクト」を実施しています。都市部にも公園や緑地などの自然があります。高齢化により活動の継続が困難である団体へお手伝いを行い、身近な自然を守ります。</p> <p>(使途)2013年5月から2014年4月まで、51回の保全活動プログラムを実施しました。活動フィールドは東京、埼玉、神奈川です。保全活動プログラムの運営費として、ご寄附いただいた25,273円を活用させていただきました。ご寄附を経費の一部(メール配信システム運営費など)に充てることにより、多くの方へ参加をよびかけることができました。</p> <p>(効果)のべ635人の一般の方々が参加しました。活動登録者も925人から1,200人以上へ増加しました。今年度も引き続き活動を実施しますので、ご寄附をいただいた皆様にもぜひご参加いただければ幸いです。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥8,108	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>(概要)当協会が実施するレンジャーズプロジェクトでは、地域で活動する環境保全団体の活動現場に、若手を中心としたボランティアを派遣しています。活動団体のお力になるとともに、環境保全活動の初心者に対し活動の機会を提供し、将来の人材育成に資する活動を実施しています。ボランティア登録数:2,242名(平成27年12月末現在)、出動回数:64回(平成27年1～12月)。</p> <p>(使途)東京都板橋区にある民間マンションの中庭が森ようになっており、住民の方を中心とした「サンシティ・グリーン・ボランティア」の皆さんが緑地の保全を行っています。今回お預かりしたご寄附8,108円は、緑地の保全活動や自然保護エリアの保全活動に対し、ボランティアの方を派遣する経費として活用させて頂きました。</p> <p>(効果)6回の活動を実施し、のべ75名の方にご参加いただき、緑のボランティアの新たな担い手の開拓を行いました。</p>	

**住宅エコポイント事業／復興支援・住宅エコポイント事業
環境寄附対象団体用 事業報告書**

事業者コード	K231	団体名	公益財団法人日本鳥類保護連盟
連絡先 (電話／メール)	03-5378-5691	活動ホームページ (URL)	http://www.jspb.org/kihu.html
対象分野	自然保護・生物多様性保全		
事業・ プロジェクト名	都市における人と野鳥との共生のためプロジェクト(バードピア計画)		
寄附額合計	¥81,055		
事業報告	平成25年度		
	寄附額	¥51,674	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>当連盟では、4年ほど前から東京都新宿区の新宿御苑にて、親子向けの巣箱イベントを実施しております。親子で巣箱を組み立て、取り付けを行い、繁殖期を挟んで取り外すところまでを行います。取り外された巣箱を観察すると、実際に子育てをしたことが明らかな巣箱もあれば、残念ながら途中で巣作りが放棄された巣箱も見られます。取り付ける前に、野鳥の生態についての説明はされていますが、巣箱に残された痕跡を見ることで、子ども達もより身近に野鳥を感じることができるとともに、野鳥を取り巻く環境について考えるきっかけになります。</p> <p>こうしたイベントは他にも何か所かで実施しており、使用する巣箱は間伐材を使用した当連盟オリジナルの商品ですが、普及啓発事業用に仕入れる費用の一部を住宅エコポイント寄附金51,674円で充当することにより、有料イベントの参加料を抑えることができました。</p> <p>平成25年以降も、学校や公園等での巣箱イベントを継続していく予定です。</p>	
	平成26年度		
	寄附額	¥17,773	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>当連盟では、5年ほど前から東京都新宿区の新宿御苑にて、親子向けの巣箱イベントを実施しております。(本年度は17組30名参加)親子で巣箱を組み立て、取り付け、繁殖期を挟んで取り外すところまでを行います。取り外された巣箱を観察すると、子育てをした巣箱もあれば、残念ながら途中で巣作りが放棄された巣箱も見られます。取り付ける前に、生態の説明はされていますが、残された痕跡を見ることで、子ども達もより身近に野鳥を感じることができ、野鳥を取り巻く環境について考えるきっかけになります。</p> <p>こうしたイベントは他にも何か所かで実施しており、使用する巣箱は間伐材を使用した当連盟オリジナルですが、普及啓発事業用に仕入れる費用の一部を住宅エコポイント寄附金17,773円で充当することにより、有料イベントの参加料を抑えることができました。</p> <p>平成26年以降も、学校や公園等での巣箱イベントを継続していく予定です。</p>	
	平成27年度		
	寄附額	¥11,608	
	実際の環境寄附の使い途 (使用対象及び成果等)	<p>当連盟では、毎年東京都新宿区の新宿御苑にて、親子向けの巣箱イベントを実施しております。(平成26年は39組のべ94名参加)親子で巣箱を組み立て、取り付け、繁殖期を挟んで、取り外すところまでを行います。「自分で作った巣箱」には思い入れがあるのか、取り外された巣箱の蓋を開ける瞬間は参加者の皆さんがワクワクした顔をしています。巣箱を架けるまでのイベントが多い中、実際に使用され役目を終えた巣箱を見ることで、子供だけでなく、大人にとっても、より野鳥を身近に感じられるイベントと好評いただいております。</p> <p>こうしたイベントは他にも何か所かで実施しており、使用する巣箱は間伐材を使用した当連盟オリジナルですが、費用の一部を住宅エコポイント寄附金11,608円で充当することにより、有料イベントの参加料を抑えることができました。</p> <p>平成27年も、学校や公園等での巣箱イベントを継続的に実施していく予定です。</p>	